いわき市立美術館年報

平成26年度

目　次

沿　　革 …… 2

展覧会事業　常設展 …… 3

企画展　みんなで元気になるアート・キャラバン３ …… 7

藝大に学んだ巨匠たち …… 12

小企画展　新たな場との出会い

―いわき市立美術館彫刻特別展示 …… 15

いわき市小・中学生版画展 …… 17

共催展　第 44 回いわき市民美術展覧会 …… 19

藝大Ａｍ＋いわき …… 23

高校生クロッキーワークショップの作品展示

普 及 事 業　移動美術館 …… 24

講演会 …… 24

美術講座 …… 24

ギャラリー・トーク …… 24

ワークショップ …… 25

実技講座 …… 25

公開制作 …… 26

映像鑑賞会 …… 26

コンサート・パフォーマンス …… 26

出版 …… 26

実技講習室の公開 …… 27

図書室の公開 …… 27

実習生の受け入れ …… 27

共催事業 …… 28

所 蔵 資 料　美術品収蔵状況 …… 30

美術品の貸し出し状況 …… 30

所蔵資料に関する状況 …… 31

新収蔵作品 …… 32

管理・運営　美術館関係法規　いわき市立美術館条例 …… 42

美術館関係法規　いわき市立美術館管理規則 …… 44

利用者一覧 …… 48

平成 26 年度当初予算 …… 51

名簿 …… 52

施設案内 …… 53

利用案内 …… 54

沿　革

昭和53年 2月	いわき市民ギャラリー主催による「ヘンリームーア展」が開催され盛況をおさめたことが市民の反響をよび、市立美術館建設の機運が高まる
昭和53年 6月	市総合計画の中で、前期に美術館建設計画を盛り込む
昭和54年 5月	美術館建設基本構想委員会を設置、委員６人を委嘱
昭和54年 8月	同委員会より美術館の基本構想について答申
昭和54年11月	基本構想を具体的に検討するため、市民20名による美術館建設審議会を設置
昭和55年 3月	美術品選定評価委員会を設置、委員５名を委嘱
昭和55年 9月	美術館・博物館建設準備室を設置
昭和55年 9月	美術館建設審議会から美術館建設について答申
昭和55年10月	基本設計は、指名競争設計方式で行うことを決める
昭和56年 1月	美術館建設基本設計審議会を設置、委員14名を委嘱
昭和56年 1月	同委員会で佐藤武夫設計事務所の案を選定
昭和56年 9月	美術館実施計画書の提出
昭和56年12月	市議会で美術館工事請負契約を決議
昭和56年12月	建設工事着工
昭和58年11月	竣工
昭和58年12月	市議会において美術館条例を決議
昭和59年 4月	美術館組織発足
昭和59年 4月28日	開館
昭和59年 4月29日	一般公開
昭和59年10月10日	いわき市立美術館友の会発足
平成 3年 4月	常設展の観覧料を祝日無料とする
平成 4年 4月	企画展の観覧をもって常設展観覧無料とする ７月、８月の金曜日の夜間開館開始
平成 4年10月	美術館協議会より「いわき市立美術館振興策」が提出される
平成 5年 1月	毎月第２土曜日を小中学生の常設展の観覧無料とする
平成 7年 4月	毎月第２、第４土曜日を小中学生の常設展の観覧無料とする
平成12年 3月	美術館協議会より「いわき市立美術館第２次振興策」が提出される
平成14年 4月	障害者、高齢者の観覧を無料とする。また、児童生徒などが土日に観覧する場合、および学校の教育活動などで観覧する場合の観覧料を無料とする
平成15年 9月～12月	大規模改修工事（休館）
平成19年 3月～ 7月	アスベスト除去工事（休館）
平成23年 3月11日	東日本大震災
平成25年 9月～平成26年11月	空気調和設備改修工事（休館）

美術館外観

展覧会事業
常　設　展

今日の美術　―ART TODAY―

前年９月から本年11月にかけての空調設備改修工事に伴う臨時休館により実質４か月間の会期となった本年度の常設展は、１期制とし小企画１、小企画２を順次開催するという変則的なかたちの開催となった。

１年２ヶ月に及ぶ長期休館後の再オープンを記念し、「現代美術の輝き－ピカソからクサマまで－」と題してスタート。ピカソからクサマまでという副題のとおり、当館が所蔵する国内外の戦後美術の名品を一堂に展示し、また、リニューアル記念の企画展「藝大に学んだ巨匠たち－東京藝術大学大学美術館所蔵作品を中心に」と連動する小企画１「藝大に学んだ作家たち－いわき市立美術館収蔵作品から」を同時開催し、リニューアルした美術館をより多くの鑑賞者に楽しんでいただける内容とした。

12月から３月の小企画２では、福島秀子の《５月の振動》、柴田善登の《自画像》、秋山泰計《夢の旅Ⅱ（象・鬼牡丹）》など、戦後日本の前衛的表現、いわきの美術の分野において当館コレクションに一層の深みをもたらす平成25年度新収蔵作品を展示、紹介した。

会　期　2014年11月15日(土)―2015年3月31日(火)
　　小企画１　11月15日(土)―12月14日(日)
　　小企画２　12月16日(火)―　3月31日(火)
会　場　いわき市立美術館　常設展示室
主　催　いわき市立美術館

作品リスト

【常設展１】（平成 26 年 11 月 15 日〜平成 26 年 12 月 14 日）

■現代美術の輝き―ピカソからクサマまで―

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	たてXよこX高さ(cm)	素材・技法
1	パブロ・ピカソ	1881 - 73	三人の女	1959	53.7 × 66.2	リノカット・紙
2	パブロ・ピカソ	1881 - 73	飾り帽子の女の顔	1962	64 × 53	リノカット・紙
3	パブロ・ピカソ	1881 - 73	花飾りの帽子	1962	53 × 40	リノカット・紙
4	アンリ・マティス	1869 - 54	版画集『ジャズ』より サーカス	1947	36 × 55	ステンシル・紙
5	アンリ・マティス	1869 - 54	版画集『ジャズ』より フォルム	1947	41 × 58	ステンシル・紙
6	アンリ・マティス	1869 - 54	版画集『ジャズ』より ピエロの埋葬	1947	42 × 65	ステンシル・紙
7	ピエール・アレンスキー	1927 -	新聞雑報	1959	100 × 149.5	油彩・カンヴァス
8	カレル・アペル	1921 - 06	黄色い帽子	1964	81 × 65	油彩・カンヴァス
9	ルーチョ・フォンタナ	1899 - 68	空間概念―期待	1959 - 60	80 × 100	水性塗料・カンヴァス
10	イヴ・クライン	1928 - 62	人体測定 ANT66	1960	157 × 311	水性メディウム、紙・カンヴァス
11	イヴ・クライン	1928 - 62	火の絵画	1961	132 × 64	焦げた厚紙、紙
12	サイ・トゥオンブリー	1928 -	What Wing Can Be Held ?	1960	152 × 199	鉛筆、油彩、クレヨン、色鉛筆・カンヴァス
13	アルマン	1928 - 05	ダマスカスの婦人の腰	1974	164 × 124 × 13	コントラバス、弓、コンクリート
14	セザール	1921 - 98	コンプレッション 2	1976	100.2 × 90.2	カードボード
15	アンディ・ウォーホル	1928 - 87	16 のジャッキーの肖像	1964	204.8 × 164	アクリル彩、エナメル、シルクスクリーン・カンヴァス
16	リチャード・ハミルトン	1922 - 11	インテリア	1964	49 × 63.6	シルクスクリーン・紙
17	ジェームズ・ローゼンクイスト	1933 -	愛のために	1965	90 × 70	シルクスクリーン・紙
18	ロイ・リクテンスタイン	1923 - 97	Sweet Dreams, Baby!	1966	153 × 122	シルクスクリーン・紙
19	ジャスパー・ジョーンズ	1930 -	コートハンガーとスプーン	1971	86.5 × 64	リトグラフ・紙
20	ヨーゼフ・ボイス	1921 - 86	Ja・Ja・Ja・Ja・Ja Nee・Nee・Nee・Nee・Nee	1969	15 × 25 × 25	フェルト・オーディオテープ
21	ジュゼッペ・ペノーネ	1947 -	川になる 3	1992	30 × 40 × 30	大理石
22	ジュゼッペ・ペノーネ	1947 -	石を彫ることは川になることである	1981	50 × 34.3	油性インク、鉛筆・紙
23	ジュゼッペ・ペノーネ	1947 -	海の石のように山の石を彫る	1981	22.5 × 27.5	鉛筆、コーヒー・紙
24	アントニー・ゴームリー	1950 -	Body and soul 6	1990	30 × 40	エッチング・紙
25	アントニー・ゴームリー	1950 -	Body and soul 7	1990	30 × 40	エッチング・紙
26	アントニー・ゴームリー	1950 -	Body and soul 8	1990	30 × 40	エッチング・紙
27	アントニー・ゴームリー	1950 -	Body and soul 9	1990	30 × 40	エッチング・紙
28	草間彌生	1929 -	Interminable Net No.1	1959	147.6 × 142	油彩・カンヴァス
29	草間彌生	1929 -	最後の晩餐	1981	115 × 340 × 260	布、椅子、机
30	河原　温	1933 - 14	OCT.19,1989	1989	66 × 91.4	アクリル・カンヴァス
31	彦坂尚嘉	1946 -	P.W.P. 20 （サーカス）	1979	117.6 × 94.7 × 8.6	アクリル彩・木

■小企画　―（特集）藝大に学んだ作家たち―いわき市立美術館収蔵作品から――

32	中林忠良	1937 -	転位 '82 －地－Ⅱ（秋）	1982	56.8 × 49	エッチング、アクアチント・紙
33	中林忠良	1937 -	転位 '82 －地－Ⅲ（冬）	1982	57 × 49	エッチング、アクアチント・紙
34	中林忠良	1937 -	転位 '82 －地－Ⅴ（春）	1982	56.8 × 49.3	エッチング、アクアチント・紙
35	山野辺義雄	1936 -	A Fable of Prison -work No.2-	1976	45 × 59	エッチング、アクアチント・紙
36	山野辺義雄	1936 -	Wax Doll in the Landscape -work No.2-	1977	44.5 × 59.5	エッチング、アクアチント・紙
37	山野辺義雄	1936 -	A Picture in the Landscape No.2	1977	44.5 × 59.5	エッチング、アクアチント・紙
38	野田哲也	1940 -	日記 1973 年 10 月 25 日	1973	50.6 × 71.3	シルクスクリーン、木版・紙
39	野田哲也	1940 -	日記 1976 年 2 月 15 日	1976	46.5 × 70	シルクスクリーン、木版・紙
40	野田哲也	1940 -	日記 1980 年 5 月 15 日	1980	45 × 65	シルクスクリーン、木版・紙
41	野田哲也	1940 -	日記 1982 年 2 月 15 日 いわきにて	1982	44.5 × 64.2	シルクスクリーン、木版・紙
42	若林　奮	1936 - 02	鮭の振動尺 1 － A	1978	41 × 165.3	ドライポイント、エングレーヴィング、銅版、真鍮、板・紙
43	若林　奮	1936 - 02	ノート・鮭の尾鰭 補遺 水のとどまるところ Ⅰ	1978	32 × 32	ドライポイント、銅版・紙
44	若林　奮	1936 - 02	ノート・鮭の尾鰭 補遺 水のとどまるところ Ⅱ	1978	32 × 32	ドライポイント、銅版・紙
45	若林　奮	1936 - 02	ノート・鮭の尾鰭 補遺 水のとどまるところ Ⅲ	1978	32.3 × 32	ドライポイント、銅版・紙

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	たてXよこX高さ(cm)	素材・技法
46	若林　奮	1936 - 02	ノート・鮭の尾鰭 補遺 水のとどまるところ Ⅳ	1978	44 × 35	ドライポイント、銅版・紙
47	若林　奮	1936 - 02	ノート・鮭の尾鰭 補遺 水のとどまるところ Ⅴ	1978	32 × 32	ドライポイント、銅版・紙
48	川島　清	1951 -	Observation 30 ドローイング 2	1991	123 × 74.8	鉛筆、インク・紙
49	川島　清	1951 -	Observation 30 ドローイング 3	1991	123 × 80.9	鉛筆・紙
50	川島　清	1951 -	Observation 30 ドローイング 4	1991	54.9 × 47.4	鉛筆・紙
51	宮島達男	1957 -	Counter History	1989	63 × 139	インク、スタンプ、カラーペン・紙
52	辰野登恵子	1950 - 14	Work 84 － P-8	1984	259 × 194	油彩・カンヴァス
53	中村一美	1956 -	濡れた下草の上に立つ覚者	1991	260 × 182.6	油彩・カンヴァス
54	小林正人	1957 -	No Title	1995	202 × 294	油彩・カンヴァス
55	赤塚佑二	1955 -	Canary 29211	1992	227 × 180	油彩、ワックス・カンヴァス
56	佐藤時啓	1957 -	Breath-Graph ＃ 25	1990	218 × 182	写真・透明メディウム
57	小山穂太郎	1955 -	無題 1	1986	110 × 170	ゼラチンシルバープリント、漂白
58	小山穂太郎	1955 -	無題 4	1986	110 × 170	ゼラチンシルバープリント、漂白
59	野村和弘	1958 -	タブロー形式の作品 1-349	2010	26 × 19.5 × 3	アクリル絵具・カンヴァス、木枠
60	野村和弘	1958 -	タブロー形式の作品 1-432	2010	26 × 19.5 × 3	アクリル絵具・カンヴァス、木枠
61	野村和弘	1958 -	untitled (dance)	2002	28 × 23 × 17	玩具、針金、木、アルミ板
62	北郷　悟	1953 -	ark	1980	61 × 96 × 58	テラコッタ

【常設展２】（平成 26 年 12 月 16 日～平成 27 年 3 月 31 日）

■現代美術の輝き―ピカソからクサマまで―

1	マルク・シャガール	1889 - 85	版画集『サーカス』より no.1	1959	42.5 × 32.5	リノカット・紙
2	マルク・シャガール	1889 - 85	版画集『サーカス』より no.9	1962	42 × 32.5 (65)	リノカット・紙
3	マルク・シャガール	1889 - 85	版画集『サーカス』より no.28	1962	42 × 32.5 (65)	リノカット・紙
4	アンリ・マティス	1869 - 54	版画集『ジャズ』より 馬と騎士と道化役者	1947	42 × 64	ステンシル・紙
5	アンリ・マティス	1869 - 54	版画集『ジャズ』より イーカロス	1947	41 × 57.5	ステンシル・紙
6	アンリ・マティス	1869 - 54	版画集『ジャズ』より 運命	1947	41.5 × 62	ステンシル・紙
7	ピエール・アレシンスキー	1927 -	新聞雑報	1959	100 × 149.5	油彩・カンヴァス
8	カレル・アペル	1921 - 06	黄色い帽子	1964	81 × 65	油彩・カンヴァス
9	ルーチョ・フォンタナ	1899 - 68	空間概念―期待	1959 - 60	80 × 100	水性塗料・カンヴァス
10	イヴ・クライン	1928 - 62	人体測定 ANT66	1960	157 × 311	水性メディウム、紙・カンヴァス
11	イヴ・クライン	1928 - 62	火の絵画	1961	132 × 64	焦げた厚紙、紙
12	サイ・トゥオンブリー	1928 -	What Wing Can Be Held ?	1960	152 × 199	鉛筆、油彩、クレヨン、色鉛筆・カンヴァス
13	アルマン	1928 - 05	ダマスカスの婦人の腰	1974	164 × 124 × 13	コントラバス、弓、コンクリート
14	セザール	1921 - 98	コンプレッション 2	1976	100.2 × 90.2	カードボード
15	アンディ・ウォーホル	1928 - 87	16 のジャッキーの肖像	1964	204.8 × 164	アクリル彩、エナメル、シルクスクリーン・カンヴァス
16	ジェームズ・ローゼンクイスト	1933 - 97	成長計画	1966	178 × 356	油彩・カンヴァス
17	ヨーゼフ・ボイス	1921 - 86	Ja・Ja・Ja・Ja・Ja Nee・Nee・Nee・Nee・Nee	1969	15 × 25 × 25	フェルト・オーディオテープ
18	ジュゼッペ・ペノーネ	1947 -	川になる 3	1992	30 × 40 × 30	大理石（２個）
19	ジュゼッペ・ペノーネ	1947 -	石を彫ることは川になることである	1981	50 × 34.3	油性インク、鉛筆・紙
20	ジュゼッペ・ペノーネ	1947 -	海の石のように山の石を彫る	1981	22.5 × 27.5	鉛筆、コーヒー・紙
21	アントニー・ゴームリー	1950 -	Body and soul 1	1990	30 × 40	エッチング・紙
22	アントニー・ゴームリー	1950 -	Body and soul 2	1990	30 × 40	エッチング・紙
23	アントニー・ゴームリー	1950 -	Body and soul 3	1990	30 × 40	エッチング・紙
24	アントニー・ゴームリー	1950 -	Body and soul 4	1990	30 × 40	エッチング・紙
25	草間彌生	1929 -	Interminable Net No.1	1959	147.6 × 142	油彩・カンヴァス

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	たてXよこX高さ(cm)	素材・技法
26	草間彌生	1929 -	最後の晩餐	1981	115 × 340 × 260	布、椅子、机
27	河原　温	1933 - 14	OCT.19,1989	1989	66 × 91.4	アクリル・カンヴァス
28	彦坂尚嘉	1946 -	P.W.P. 20　(サーカス)	1979	117.6 × 94.7 × 8.6	アクリル彩・木
■小企画　―平成 25 年新収蔵作品を中心に―						
29	福島秀子　(新収蔵)	1927 - 97	五月の振動Ⅳ	1986	97 × 162	アクリル・カンヴァス
30	福島秀子　(新収蔵)	1927 - 97	(題名不詳)	不詳	76.7 × 56.7	水彩・紙
31	福島秀子　(新収蔵)	1927 - 97	(題名不詳)	不詳	56.5 × 75.8	水彩・紙
32	村井正誠	1905 - 99	ねこ	1958	72.8 × 61	油彩・カンヴァス
33	北代省三	1921 - 01	ヒステリック・フェノメノン	1948(1989 再制作)	116.7 × 116.7	油彩・カンヴァス
34	北代省三	1921 - 01	ホワイトノイズ	1951(1989 再制作)	72.7 × 116.7	油彩・カンヴァス
35	山口勝弘	1928 -	赤い街	1957	59.5 × 90	油彩・ガラス（ヴィトリーヌ）
36	駒井哲郎	1920 - 76	詩画集『よごれてゐない一日』	1970		インタリオ・紙
37	池田龍雄	1928 -	薄い顔（化け物の系譜）	1956 頃	41.3 × 31.5	ペン、木炭、水彩・紙
38	池田龍雄	1928 -	面目乖離	1959 頃	37.2 × 47.5	ペン、木炭、水彩・紙
39	柴田善登　(新収蔵)	1910 - 95	自画像	不詳	33.1 × 24	油彩・カンヴァスボード
40	柴田善登　(新収蔵)	1910 - 95	人物（1）	1949	38 × 23.2	鉛筆・紙
41	柴田善登　(新収蔵)	1910 - 95	人物（2）	1950	36.4 × 26	鉛筆・紙
42	鈴木新夫	1915 - 80	自画像	1943 - 44	28.4 × 21.9	コンテ、インク・紙
43	若松光一郎	1915 - 95	柴田善登	1946	36 × 27	コンテ・紙
44	若松光一郎	1915 - 95	熊坂太郎	1946	37 × 26.5	コンテ、水彩・紙
45	柴田善登　(新収蔵)	1910 - 95	常磐・綴	1948	18.5 × 25.2	鉛筆・紙
46	鈴木新夫	1915 - 80	炭砿長屋	1955 - 56	20.5 × 28.5	鉛筆、サインペン、水彩・紙
47	鈴木新夫	1915 - 80	炭砿長屋 3	1955 - 56	26.5 × 35.5	コンテ・紙
48	若松光一郎	1915 - 95	五月のヤマ（小田炭鉱）	1957 頃	32 × 40.7	水彩、鉛筆・紙
49	(資料展示)		アルバム（柴田善登アルバムより）			
50	(資料展示)		はがき（若松光一郎より柴田善登へ）			
51	柴田善登　(新収蔵)	1910 - 95	水上ホテル（1）	1958 頃	24.5 × 35.5	鉛筆・紙
52	柴田善登　(新収蔵)	1910 - 95	水上ホテル（2）	1958 頃	24.5 × 35.5	鉛筆・紙
53	柴田善登　(新収蔵)	1910 - 95	水上ホテル（3）	1958 頃	24.5 × 35.5	鉛筆・紙
54	柴田善登	1910 - 95	水上ホテル	1958	80 × 116.5	油彩・カンバス
55	柴田善登	1910 - 95	鈴江倉庫	1958	97 × 130	油彩・カンバス
56	秋山泰計　(新収蔵)	1927 - 86	同行二人	1970	90 × 63	木版・紙
57	秋山泰計　(新収蔵)	1927 - 86	鳥をねらう猫を抱く少女	1976	84 × 43	木版・紙
58	秋山泰計　(新収蔵)	1927 - 86	手品	1984	83 × 55	木版・紙
59	秋山泰計　(新収蔵)	1927 - 86	夢の旅Ⅱ（象・鬼牡丹）	1985	90 × 185	木版・紙
60	田口安男	1930 -	もちあい三つ手 B	1982 -	53 × 53	テンペラ・カンヴァス
61	田口安男	1930 -	もちあい三つの手うかび	1972 -	100 × 73	テンペラ・カンヴァス

展覧会事業
企　画　展

みんなで元気になる
アート・キャラバン３

空調設備改修工事による約１年半という長期休館に入ることから、美術館を拠点とした事業に代え、誰もが手軽に取り組めるワークショップ・プログラムを希望者のもとへ出前するアウトリーチ事業を前年度より引き続き実施した。

昨年度の実績により情報発信も好調に進み、事前公募にも参加希望の申し出が多数寄せられた。また、東日本大震災直後より支援の手を差し伸べて下さった色彩心理研究家の末永蒼生氏の３年間を振り返った特別講演や、俳優橋爪功氏による朗読劇の特別公演は、震災後３年を経過しひとつの岐路に立った市民への力強い後押しとなった。

実施内容は記録し、DVD および冊子による報告書としてまとめた。

参加したさまざまな施設より事業の継続を希望する声が相次ぎ、市民のニーズに合った普及活動を市民と共に育む活動を新たに検討する良い機会ともなった。

期　間　平成26年4月16日(水)～11月13日(木)
主　催　いわき市立美術館
共　催　いわき芸術文化交流館アリオス

橋爪功の朗読劇

【特別公演】橋爪功の朗読劇『四谷怪談』

名優・橋爪功による一人十数役を演じ分ける新作朗読劇。鶴屋南北の代表作を、フジノサツコ脚本、森新太郎演出により熱演。

出演：橋爪功　原作：鶴屋南北　演出：森新太郎
脚本：フジノサツコ　美術・衣装：カナイヒロミ
照明：大平智己（ASG）　音響：穴沢淳　舞台監督：清水義幸（カフンタ）
演奏：小川剛生（和太鼓）／深見由真（ヴィオラ）

日時	会場	参加団体
7月11日、7月12日 2回公演	いわき芸術交流館アリオス　小劇場	

橋爪功の朗読劇

【特別講演】末永蒼生特別講演会「アートを楽しみながら心を養う」

アート・キャラバン事業の締めくくりとして、アート・セラピーの実践者である末永蒼生の自身の体験を通したアートと心のかかわりについてさまざまな実践例を紹介。

講師：末永蒼生　アシスタント：馬目佳世子

日時	会場	参加団体
10月26日	いわき市生涯学習プラザ	

末永蒼生特別講演会

末永蒼生特別講演会

【切り絵の楽しさ、いろいろデザイン、試しちゃおう！】

一枚の紙を折ったり切ったりして、伝統的なアイヌ文様や簡単な下絵を用いた切り絵、オリジナル下絵を準備した本格的切り絵など、対象に合わせたアート体験。

講師：当館スタッフ

日時	会場	参加団体
4月16日	平老人福祉センター	老人福祉センター職員研修会
7月3日	いわき中央公民館	市民講座
7月9日	江名公民館	市民講座
8月18日	錦中学校	美術部
9月11日	四倉老人福祉センター	いきいきデイクラブ
9月17日	磐城学芸専門学校アート・コミック科	高等課程/専門課程
9月29日	内郷老人福祉センター	いきいきデイクラブ
10月7日	内郷老人福祉センター	手作り愛好会
10月23日	平老人福祉センター	いきいきデイクラブ

切り絵の楽しさ／平老人福祉センター

切り絵の楽しさ／四倉老人福祉センター

【世界にひとつだけのグラスアート】

サンドブラストやグラス・エングレービングなどの技法を用いて、ガラス製品にオリジナルの模様を刻む造形体験。

講師：当館スタッフ

日時	会場	参加団体
4月16日	平老人福祉センター	老人福祉センター職員研修会
5月13日	いわき養護学校	高等部3年6組
6月9日	磐城学芸専門学校アート・コミック科	高等課程／専門課程
6月30日	内郷老人福祉センター	いきいきデイクラブ
7月17日	中央公民館	市民講座
7月19日	好間地区協議会	青少年福祉体験学習
8月5日	親子都市中学生交流事業	由利本荘市岩城中学校／ いわき市立上遠野中学校1年生
8月28日	平老人福祉センター	いきいきデイクラブ
9月27日	小名浜老人いこいの家	グラスアートの集い

グラスアート／磐城学芸専門学校

グラスアート／磐城学芸専門学校

日時	会場	参加団体
10月７日	内郷老人福祉センター	いきいきデイクラブ
10月11日	飯野公民館	きらきら探検隊（小学４～６年生）
11月13日	四倉老人福祉センター	いきいきデイクラブ

グラスアート／親子都市中学生交流事業

【岩絵具で遊んじゃおう！】
日本画用の絵の具を用いたお絵かきワークショップ。浮世絵や季節の花々などの馴染みやすいぬりえを使いながら、日本伝統の画材に親しむ体験。
講師：当館スタッフ

日時	会場	参加団体
５月１日	いわき中央公民館	市民講座
９月12日	川前地区協議会	川前１区サロン
10月４日	国際交流協会	ぬりえカフェ
10月14日	平養護学校	小学部２～６年生
11月６日	川前地区協議会	川前12区サロン

岩絵具で遊んじゃおう！／平養護学校

岩絵具で遊んじゃおう！／川前地区協議会

【スイーツアートでデコレーション】
フェイククリームやビーズなどを用いてスイーツ・ストラップやマグネット、あるいは、フォトフレームのデコレーションをおこなう。
講師：当館スタッフ

日時	会場	参加団体
５月12日	勿来カトリック幼稚園	５～６歳児
５月19日	いわき養護学校	高等部　家庭サークル
６月５日	いわき中央公民館	市民講座
６月15日	高坂幼稚園	３～６歳児親子
６月21日	上遠野公民館	ジュニアリーダー教室
６月28日	渡辺地区協議会	スイーツデコ親子体験教室
７月28日	セリオス遊学館	学童保育児童（小学１～４年生）
８月４日	錦中学校	美術部
８月６日	四倉公民館	夏休み体験教室
８月７日	男女共同参画事業	男女共同参画基礎講座　親子編
８月８日	小名浜三小児童クラブ	学童保育児童（小学１～６年生）
８月21日	あざみ野幼稚園学童クラブ	学童保育児童（小学１～６年生）
９月３日	磐城学芸専門学校アート・コミック科	高等課程/専門課程
９月５日	豊間公民館	豊間第四喜楽会
９月10日	沼の内公民館	豊間第三あけぼの会
９月13日	赤井田町子ども会	スイーツデコ体験教室
９月19日	大野公民館	ふれあいサロン
９月20日	好間地区協議会	青少年福祉体験学習
10月９日	夏井公民館	夏井セミナー

スイーツアート／いわき養護学校

スイーツアート／いわき中央公民館

スイーツアート／大野公民館

【写真をもっと楽しもう！プロから学ぶ絶好のシャッターチャンス】
気軽に撮れる写真をもっと満足のいく１枚にしたい。プロの視点とタイミングを学びながら、自分のシャッターチャンスを探るワークショップ。
講師：丹　英直（商業写真家）

日時	会場	参加団体
５月15日	いわき中央公民館	市民講座
５月16日	錦公民館	市民講座

スイーツアート／大野公民館

【お茶のおいしさ、お茶のたのしみ】
日本茶インストラクターを講師に、お茶の歴史や優れた効能、日本の「おもてなし」の美について、実際に煎茶の入れ方を体験しながら学ぶ講座。

講師：梶塚宏之（日本茶インストラクター）
高木丘之（日本茶インストラクター）
吉田達生（日本茶インストラクター）
高原あかね（日本茶アドバイザー）

日時	会場	参加団体
5月21日	入遠野公民館	あさひ倶楽部
5月23日	内郷老人福祉センター	いきいきデイクラブ
6月13日	川前地区協議会	川前１区サロン
6月19日	中央公民館	市民講座
6月20日	川部公民館	川部シニア教室
6月27日	内郷老人福祉センター	いきいきデイクラブ
7月22日	上三坂公民館	上三坂サロン
7月24日	川前地区協議会	川前12区サロン
9月4日	飯野公民館	さわやか女性セミナー
9月24日	四倉公民館	四倉うしお学級
10月9日	大浦公民館	高齢者学級

写真をもっと楽しもう／錦公民館

お茶のたのしみ／入遠野公民館

お茶のたのしみ／川前地区協議会

【めざせ真球！光れどろだんご】
陶芸用の粘土を使ったどろだんご作り。身近な道具を使って真球をめざし、ピカピカに光らせることにチャレンジする。

講師：当館スタッフ

日時	会場	参加団体
6月14日	藤原公民館	藤原元気クラブ
6月15日	高坂幼稚園	５～６歳児親子
7月15日	綴小学校	５～６年生
7月18日	中央台東児童クラブ・ 中央台東第二児童クラブ	学童保育児童（小学１～６年生）
7月31日	セリオス遊学館	学童保育児童（小学１～４年生）
9月2日	四倉第一幼稚園	３～６歳児
10月1日	磐城学芸専門学校アート・コミック科	高等課程/専門課程
10月19日	西郷子ども会	どろだんご体験教室
11月8日	菊田小学校子ども会	どろだんご体験教室

光れどろだんご／高坂幼稚園

光れどろだんご／高坂幼稚園

光れどろだんご／菊田小学校子ども会

【カラーセラピーぬりえ体験】
アートセラピスト末永蒼生監修によるアートセラピーぬりえを用いて、好きな画材や色彩を自由に使っているアート体験。　注）セラピーを実施するものではない。

講師：当館スタッフ

日時	会場	参加団体
6月17日	豊間公民館	豊間わかば会
7月16日	四倉公民館	四倉うしお学級

カラーセラピーぬり絵体験／豊間公民館

【粘土で遊ぼう！立体造形をたのしもう】
いわき出身、ゆかりの２人の彫刻家といっしょに、１tを超える粘土の山で造形体験。
粘土の感触を楽しんだり、造形の醍醐味を味わい、最後にすべての後片付けをして終了。
全身で粘土を感じながら、心地よさや奥深さを実感するワークショップ。
講師：安藤栄作（彫刻家）　髙野正晃（彫刻家）

日時	会場	参加団体
７月４日	あざみ野幼稚園	３～６歳児
７月５日	泉公民館	少年学級（小学４～６年生）

【Dr.丹波のよく飛ぶ紙ヒコーキ】
紙ヒコーキ日本チャンピオンの工学博士から、より良く飛ぶ紙ヒコーキの作り方、飛ばし方を教わり、みんなで思い切り飛ばしてみるワークショップ。
講師：丹波純（工学博士）

日時	会場	参加団体
７月25日	中央台東児童クラブ・ 中央台東第二児童クラブ	学童保育児童（小学３～６年生）
７月26日	四倉公民館	夏休み親子体験教室

【リズムにのって全身ストレッチ】
リズムにのって全身運動をしながら、からだの緊張とリラックスを体感。さらに、各自から自由で伸び伸びとしたダンス表現を導き出し、筋力、柔軟性、表現力の強化を促す。
講師：神永宰良（舞踊家、振付家、演出家）
アシスタント／模範演技：エクスプレッションD.S.メンバー

日時	会場	参加団体
８月１日	中央台東児童クラブ・ 中央台東第二児童クラブ	学童保育児童（小学１～５年生）

カラーセラピーぬり絵体験／豊間公民館

粘土で遊ぼう／泉公民館

Dr. 丹波のよく飛ぶ紙ヒコーキ／中央台東児童クラブ

Dr. 丹波のよく飛ぶ紙ヒコーキ／中央台東児童クラブ

リズムにのって全身ストレッチ／中央台東児童クラブ

展覧会事業
企画展

藝大に学んだ巨匠たち
－東京藝術大学大学美術館所蔵作品を中心に

東京藝術大学は、前身の東京美術学校と東京音楽学校が明治20年に設立され、その後昭和24年の学制改革による両校統合により現在に至っているが、我が国最初の官立の総合的な芸術教育と研究の専門機関として発足以来、数多くの優れた人材を育成し、近現代の美術と音楽の動向に大きな影響を及ぼしてきた。またこの間、教育研究資料として国宝、重文を含む古美術、楽器、絵画・彫刻・工芸品、建築・デザイン図面など約28,500件の芸術資料の収集を通して、日本の近現代美術の調査研究において欠くことのできない国内有数の質と量を誇るコレクションを形成し、今日、極めて高い評価を得ている。本展は、藝大コレクションのなかから、東京美術学校（東京藝術大学）が輩出してきた明治・大正・昭和初期を代表する作家たちの教官・学生時代に制作した貴重な絵画や彫刻作品をとりあげ、さらに同時代性をもった戦後の良質な美術作品といわきの美術を収集方針に掲げる当館コレクションを一部加え、戦後美術の動向に多大な影響を与えてきた藝大関連作家と、当地の美術界に大きな足跡を残してきた藝大に学んだいわきの作家たちの作品を紹介したが、明治期に設立されて以降、常に中央及び地方の美術界に主導的な人材、作家を送り続けてきた教育研究機関としての藝大の果たしてきた役割を再考する機会となり、好評を得た。

会　期　平成26年11月15日(土)～12月14日(日)
会　場　いわき市立美術館2階企画展示室及び2階ロビー
主　催　いわき市立美術館、東京藝術大学美術学部、東京藝術大学大学美術館
後　援　福島県

作品リスト

№.	作家名	作品名	制作年	寸法（cm）	素材	所蔵先
Ⅰ	近代美術の幕開け					
1	アントニオ・フォンタネージ	牧牛	19 世紀	19.5 × 24.8	油彩・紙	東京藝術大学
2	チャールズ・ワーグマン	自画像	19 世紀	31.0 × 23.8	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
3	高橋由一	花魁	明治 5（1872）	77.0 × 54.8	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
4	高橋由一	鮭	明治 10（1877）頃	140.0 × 46.5	油彩・紙	東京藝術大学
5	五姓田義松	操芝居	明治 16（1883）	84.0 × 119.4	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
6	原田直次郎	靴屋の親爺	明治 19（1886）	60.3 × 46.5	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
7	ヴィンチェンツォ・ラグーザ	日本婦人	明治 13-14（1880-1881）	62.0 × 48.0 × 30.0	ブロンズ	東京藝術大学
8	狩野芳崖	岩石	明治 20（1887）	136.0 × 85.0	絹本墨画	東京藝術大学
Ⅱ	東京美術学校から始まるストーリー　明治・大正・昭和初期まで					
9	橋本雅邦	月夜山水	制作年不詳	82.4 × 136.8	紙本着彩	東京藝術大学
10	川端玉章	荷花水禽	明治 32（1899）	174.0 × 83.0	絹本着彩	東京藝術大学
11	横山大観	村童観猿翁	明治 26（1893）	110.5 × 180.5	絹本着彩	東京藝術大学
12	下村観山	熊野御前花見	明治 27（1894）	61.3 × 119.7	絹本着彩	東京藝術大学
13	菱田春草	秋景山水	明治 26（1893）	118.2 × 53.8	紙本墨画淡彩	東京藝術大学
14	加藤栄三	秋	昭和 6（1931）	188.7 × 162.8	絹本着彩	東京藝術大学
15	杉山　寧	野	昭和 8（1933）	177.8 × 178.4	紙本着彩	東京藝術大学
16	髙山辰雄	砂丘	昭和 11（1936）	236.0 × 183.0	絹本着彩	東京藝術大学
17	久米桂一郎	寒林枯葉	明治 24（1891）	43.9 × 60.0	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
18	黒田清輝	婦人像（厨房）	明治 25（1892）	179.6 × 114.3	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
19	藤島武二	造花	明治 34（1901）	136.5 × 94.0	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
20	岡田三郎助	西洋婦人像	明治 31（1898）	46.5 × 35.1	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
21	白瀧幾之助	稽古	明治 30（1897）	136.5 × 197.0	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
22	和田英作	渡頭の夕暮	明治 30（1897）	126.6 × 189.3	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
23	赤松麟作	夜汽車	明治 34（1901）	161.0 × 200.0	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
24	青木　繁	自画像	明治 37（1904）	60.6 × 45.5	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
25	萬 鉄五郎	自画像	明治 45（1912）	60.6 × 45.5	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
26	小出栖重	自画像	大正 3（1914）	60.6 × 45.5	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
27	佐伯祐三	自画像	大正 12（1923）	60.6 × 45.5	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
28	小磯良平	彼の休息	昭和 2（1927）	145.3 × 112.0	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
29	大沢昌助	姉妹	昭和 3（1928）	111.9 × 145.4	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
30	長沼守敬	老夫	明治 31（1898）頃	55.0 × 33.0 × 26.5	ブロンズ	東京藝術大学
31	高村光雲	聖徳太子	明治 44（1911）	46.6 × 36.0 × 29.5	木	東京藝術大学
32	平櫛田中	五浦釣人	昭和 18（1943）	110.0 × 38.0 × 29.0	木	東京藝術大学
33	高村光太郎	獅子吼	明治 35（1902）	110.0 × 43.0 × 32.0	ブロンズ	東京藝術大学
34	朝倉文夫	つるされた猫	明治 42（1909）	51.5 × 27.0 × 24.0	ブロンズ	東京藝術大学
Ⅲ	戦後の美術ー藝大コレクション＋いわき市美コレクションより					
35	加山又造	原始時代	昭和 26（1951）	177.0 × 223.5	紙本着彩	東京藝術大学
36	平山郁夫	三人姉妹	昭和 27（1952）	208.5 × 149.5	紙本着彩	東京藝術大学
37	吉岡堅二	群鶏	昭和 33（1958）	135.2 × 105.0	紙本金地着彩	東京藝術大学
38	工藤甲人	野分	昭和 39（1964）	90.9 × 116.6	紙本着彩	東京藝術大学
39	浜田知明	自画像	昭和 14（1939）	60.6 × 45.5	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
40	浜田知明	初年兵哀歌（歩哨）	昭和 29（1954）	24.0 × 16.2	エッチング、アクアチント・紙	いわき市立美術館
41	浜田知明	刑場（A）	昭和 29（1954）	24.5 × 18.3	エッチング、アクアチント・紙	いわき市立美術館
42	浜田知明	刑場（B）	昭和 29（1954）	22.0 × 10.6	エッチング、アクアチント・紙	いわき市立美術館
43	駒井哲郎	自画像	昭和 17（1942）	60.6 × 45.5	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
44	駒井哲郎	芽生え	昭和 30（1955）	16.5 × 27.5	アクアチント、エングレーヴィング・紙	いわき市立美術館
45	駒井哲郎	夜の森	昭和 33（1958）	21.6 × 19.1	アクアチント・紙	いわき市立美術館
46	山口長男	三つの四角	昭和 31（1956）	183.0 × 183.0	油彩・合板	いわき市立美術館
47	杉全 直	たかげた	昭和 24（1949）	65.2 × 80.5	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
48	杉全 直	きっこう白	昭和 37（1962）	131.0 × 161.5	油彩・カンヴァス	いわき市立美術館

No.	作家名	作品名	制作年	寸法（cm）	素材	所蔵先
49	山口 薫	十和田紀行	昭和 23（1948）	91.0 × 116.2	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
50	牛島憲之	早春	昭和 27（1952）	91.2 × 60.8	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
51	脇田 和	少女・卵・花	昭和 30（1955）	49.9 × 60.5	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
52	櫃田伸也	ひとたち	昭和 39（1964）	144.7 × 144.7	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
53	高松次郎	点	昭和 37（1962）	27.5 × 22.5	紐、ラッカー・木	いわき市立美術館
54	高松次郎	影 A	昭和 39（1964）	170.0 × 137 × 12.0	金具、油彩・合板	いわき市立美術館
55	高松次郎	日本語の文字	昭和 45（1970）	72.8 × 51.5	オフセット・紙	いわき市立美術館
56	高松次郎	英語の単語	昭和 45（1970）	79.0 × 54.5	オフセット・紙	いわき市立美術館
57	中西夏之	韻’60	昭和 35（1960）	91.6 × 105.6	ペイント、エナメル、砂・合板	いわき市立美術館
58	中西夏之	コンパクト・オブジェ（卵）	昭和 37（1962）	15 × 15 × 23	ポリエステル、時計等	いわき市立美術館
59	工藤哲巳	限定プールに於ける増殖性連鎖反応	昭和 33（1958）	199.0 × 153.0 × 16.0	しゅろ縄、ビニールチューブ、木枠	いわき市立美術館
60	工藤哲巳	遺伝染色体の中の散歩	昭和 54（1979）	33.5 × 18.5 × 28	鳥籠、木、プラスチック、糸、その他	いわき市立美術館
61	磯辺行久	Work62-11	昭和 37（1962）	182 × 127.5	油彩、大理石＋メディウム・木	いわき市立美術館
62	柳原義達	高瀬さんの首	昭和 23（1948）	36.0 × 22.0 × 23.5	ブロンズ	東京藝術大学
63	柳原義達	坐る	昭和 35（1960）	129.0 × 44.0 × 75.0	ブロンズ	いわき市立美術館
64	淀井敏夫	聖マントヒヒ	昭和 41（1966）	41.5 × 35.5 × 60.5	ブロンズ	東京藝術大学
65	舟越保武	萩原朔太郎の首	昭和 30（1955）	24.0 × 20.0 × 23.0	ブロンズ	東京藝術大学
66	佐藤忠良	常磐の大工	昭和 31（1956）	21.5 × 14.5 × 23.0	セメント	いわき市立美術館
67	建畠覚造	ORGAN　No.8	昭和 40（1965）	90.3 × 167.0 × 91.2	セメント、鉄	いわき市立美術館
68	最上寿之	笑、笑、笑、笑	昭和 38（1963）	165.0 × 96.0 × 52.5	木	いわき市立美術館
Ⅳ	藝大といわきの美術					
69	中西一郎（一路）	晩秋の山ぐに	昭和 7（1932）	148.7 × 188.0	絹本着彩（二曲屏風）	東京藝術大学
70	吉田富美	自画像	昭和 10（1935）	60.6 × 45.5	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
71	吉田富美	鏡	昭和 10（1935）	145.5 × 112.5	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
72	柴田善登	自画像	制作年不詳	33.1 × 24.0	油彩・カンヴァスボード	いわき市立美術館
73	柴田善登	鈴江倉庫	昭和 33（1958）	97 × 130	油彩・カンヴァス	いわき市立美術館
74	村山正吉	自画像	昭和 14(1939)	60.6 × 45.5	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
75	村山正吉	風景 A	昭和 14（1939）	129.0 × 161.0	油彩・カンヴァス	いわき市立美術館
76	若松光一郎	自画像	昭和 13（1938）	60.6 × 45.5	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
77	若松光一郎	石の村	昭和 16（1941）	112.0 × 140.5	油彩・カンヴァス	いわき市立美術館
78	若松光一郎	北国の記念碑	昭和 40（1965）	162.5 × 144.8	墨、カゼインカラー、雲母、和紙・カンヴァス	いわき市立美術館
79	鈴木新夫	自画像	昭和 18（1943）～ 19（1944）	28.4 × 21.9	コンテ、インク・紙	いわき市立美術館
80	鈴木新夫	機関庫	昭和 22（1947）	110.0 × 144.0	油彩・カンヴァス	いわき市立美術館
81	鈴木新夫	赤い鉄骨	昭和 30（1955）	130.5 × 162.0	油彩・カンヴァス	いわき市立美術館
82	田口安男	自画像	昭和 29（1954）	60.6 × 45.5	油彩・カンヴァス	東京藝術大学
83	田口安男	私自身	昭和 36（1961）	74 × 55	カゼインカラー・紙	いわき市立美術館
84	田口安男	白と黒の間	昭和 34（1959）	145.5 × 112.1	油彩・カンヴァス	いわき市立美術館
85	田口安男	リズム - 対称性と周期性について -B	昭和 31（1956）	97.0 × 130.3	油彩・カンヴァス	いわき市立美術館
86	渡辺明節	黒服の芳子	昭和 26（1951）	118.9 × 88.8	紙本着彩	東京藝術大学
87	鈴木芳子	私の像	昭和 30（1955）	155.5 × 115.0	紙本着彩	いわき市立美術館
88	鈴木芳子	A さん夫婦の像	昭和 32（1957）	122.5 × 117.7	紙本着彩	いわき市立美術館

展覧会事業
小企画展

新たな場との出会い
ーいわき市立美術館彫刻特別展示

空調設備改修工事による休館期間中の館外活動の一環として、当館が収蔵する優れた彫刻作品を、市内の文化施設４館（アンモナイトセンター、暮らしの伝承郷、考古資料館、草野心平記念文学館）に特別展示。各館とも無料で入場できるロビーで開催し、より多くの人々に観覧してもらうことを目的とした。

出品作は、各館の特色や建物のイメージを考慮のうえ、ブロンズ、鉄、石、セメントなど多様な材質の作品を選んだ。ロビーの面積に応じて展示点数に多少の差はあったものの、同時期に市内でさまざまなタイプの彫刻を楽しむことができる機会となった。彫刻展示によって普段とは異なる空間へと変化した文化施設のロビーを、あわせて７千人を超える人々が訪れ、好評を得た。

会　期　2014年4月26日(土)～6月8日(日)
主　催　いわき市立美術館
共催・会場　いわき市アンモナイトセンター、いわき市暮らしの伝承郷、
いわき市考古資料館、いわき市立草野心平記念文学館

作品リスト

No.	作家名	作家生没年	作品名	制作年	技法・素材	サイズ
■いわき市アンモナイトセンター						
1	河口龍夫	1940 －	DARK BOX 2011	2011	鉄、闇、闇への鉛の封書	37 × 60 × 35
2	河口龍夫	1940 －	貝の未来	2011	貝殻、石塑、水彩絵具	33 点のうち 4 点
■いわき市考古資料館						
1	佐藤忠良	1912 － 2011	帽子・あぐら	1973	ブロンズ	86.5 × 65.5 × 54.5
2	佐藤忠良	1912 － 2011	常磐の大工	1956	セメント	21.5 × 14.5 × 23
3	淀井敏夫	1911 － 2005	海辺の女	1970	ブロンズ	82 × 23 × 57
■いわき市立草野心平記念文学館						
1	黒川弘毅	1952 －	ゴーレム 21	1986	ブロンズ	59 × 47.5 × 50.5
2	黒川弘毅	1952 －	ゴーレム 22	1986	ブロンズ	52.5 × 50 × 30
3	黒川弘毅	1952 －	ゴーレム 23	1986	ブロンズ	40 × 41 × 18
4	黒川弘毅	1952 －	ゴーレム 24	1986	ブロンズ	36 × 84 × 51
5	ジャコモ・マンズー	1908 － 1991	枢機卿坐像	1981	ブロンズ	122 × 66.5 × 52.5
6	柳原義達	1910 － 2004	坐る	1960	ブロンズ	129.5 × 44.0 × 75.0
7	高田博厚	1900 － 1987	憩う	1961	ブロンズ	56 × 65 × 50
8	山本正道	1941 －	追憶	1975 (1983 追鋳造)	ブロンズ	21.3 × 95.5 × 38.5
9	佐藤忠良	1912 － 2011	はだか	1954	ブロンズ	93.5 × 25 × 27
■いわき市暮らしの伝承郷						
1	木内　克	1892 － 1977	座裸婦	1959	ブロンズ	105.0 × 76.0 × 68.0
2	佐藤忠良	1912 － 2011	帽子	1981	ブロンズ	39.0 × 29.5 × 33.0
3	堀内正和	1911 － 2001	人差指	1966	ブロンズ	49.4 × 16.0 × 16.0
4	赤堀信平	1899 － 1992	孫（おさなご）	1963	ブロンズ	31.0 × 26.0 × 29.0
5	渡辺尋志	1959 －	音子（ねこ）	1985	御影石	25.5 × 20.5 × 17

草野心平記念文学館 展示風景

展覧会事業
小企画展

平成26年度 いわき市小・中学生版画展

「いわき市小・中学生版画展」は、いわき市内の児童生徒の日ごろの活動の成果を広く市民に紹介するとともに、児童生徒が造形学習や表現行為への興味と喜びを体験する機会とすることを目的に開館以来開催を続けている展覧会である。

空調改修工事に伴い文化センターでの開催となった昨年の展開を好機ととらえ、より良い展示効果、学校現場の負担軽減、そして何よりも本展の趣旨に沿った展覧会とすべく、準備会など各学校の担当教師との話し合いをとおして募集要項の大幅な見直し、改編を行った。昨年度に導入して好評を得た「240㎝×240㎝以内の共同制作」という作品規格を踏襲し、出品点数に関しては各校クラス数を上限とした新たな募集要項での作品募集とした。

結果、一昨年のレベルには届かないものの、参加校、参加者、出品点数とも昨年に比べ大きく増加した。各学校の担当教員のアンケートによれば、作品の制作、搬入、搬出についてはおおむね好評であり、来館者からは展示構成について好意的な意見が寄せられた。

今回の大幅な募集要項の変更の趣旨をさらに現場に浸透させ、来年度以降の出品作品のバラエティの向上や点数増につなげたい。

会期中の催しとして　フロッタージュ技法でのカードづくりに挑戦する「プリント・コーナー」を毎日開催するほか、恒例の「春を祝うコンサート」、「わくわくアートスクール」を開催し多くの参加者を得た。

会　期　平成27年1月6日(火)～1月25日(日)
　　前期展示　平成27年1月　6日(火)～1月14日(水)
　　後期展示　平成27年1月17日(土)～1月25日(日)
会　場　いわき市立美術館
主　催　いわき市教育委員会　いわき市立美術館
協　力　いわき市小学校教育研究会図画工作部会　いわき市中学校教育研究会美術会

■参加校及び出品点数

参 加 校	70校	小 学 校　61校 中 学 校　5校 特別支援諸学校　4校	前期展示 展示点数（全て共同作品）　189点 出 品 校　34校 出品者数　3,643人 後期展示 展示点数（全て共同作品）　170点 出 品 校　36校 出品者数　4,887人
出品点数	359点	小 学 校　311点 中 学 校　9点 特別支援諸学校　39点	
参加者数	8,530人	小 学 校　8,108人 中 学 校　254人 特別支援諸学校　168人	

■参加校一覧

◆前期展示校

【小学校】

平第二小学校
平第三小学校
平第四小学校
中央台北小学校
中央台南小学校
高久小学校
赤井小学校
大浦小学校
久之浜一小学校
小玉小学校
綴小学校
高坂小学校
高野小学校
好間第三小学校
好間第四小学校
沢渡小学校
三阪小学校
永戸小学校
永井小学校
小名浜第二小学校
小名浜第三小学校
小名浜西小学校
永崎小学校
泉北小学校
湯本第三小学校
磐崎小学校
藤原小学校
植田小学校
錦東小学校
菊田小学校
勿来第二小学校

【中学校】

平第二中学校
湯本第三中学校
植田中学校

◆後期展示校

【小学校】

平第一小学校
平第五小学校
平第六小学校
郷ケ丘小学校
中央台東小学校
豊間小学校
夏井小学校
草野小学校
四倉小学校
大野一小学校
久之浜二小学校
小川小学校
川前小学校
小白井小学校
白水小学校井
内町小学校
御厩小学校
宮小学校
好間第一小学校
好間第二小学校
差塩小学校
小名浜第一小学校
鹿島小学校
江名小学校
渡辺小学校
湯本第一小学校
湯本第二小学校
汐見が丘小学校
上遠野小学校
入遠野小学校

【中学校】

平第三中学校
磐崎中学校

【特別支援諸学校】

聾学校平分校
平養護学校
いわき養護学校（小）
いわき養護学校（中）
富岡養護学校

展覧会事業
共　催　展

第44回いわき市民美術展覧会

●書の部
一般応募120点（内、青少年7点）
展示点数146点（招待21点、遺作1点、委嘱4点、一般120点、）

●絵画・彫塑の部
一般応募212点（内、青少年26点）
展示点数210点（招待16点、遺作1点、一般193点）

●陶芸の部
一般応募117点（内、青少年1点）
展示点数127点（招待10点、一般117点）

●写真の部
一般応募204点（内、青少年2点）
展示点数207点（招待3点、一般204点）

以上が、第44回いわき市民美術展覧会（市美展）の応募・展示状況である。

書の部では佐々木部会長がご逝去されたことの影響もあり、25点の減であった。絵画・彫塑の部では、絵画の応募点数が昨年に比べて10点増え、この10年ほどでは最大の出品点数となった。搬入作品の横幅総延長を計算したところ、落選を出すという方針になり、審査の結果19点が落選となった。陶芸の部では、応募点数が前回に比べ22点の減であった。この数字は震災後に陶芸を始め出品してきた方で、継続する人は減っているということを示すのかも知れない。写真の部では、前回に比べ16点の増で、この4年の減少傾向に歯止めがかかった。

今年度より、書の部の事情により、部門の開催会期が昔と同じように、書の部、絵画・彫塑の部、「陶芸の部、写真の部」の順番になった。

なお、陶芸の部では、会期中の催しとして、新たに呈茶会「市民がつくった茶碗を使って……」を実施し、75名以上の参加者を得た。

会　期　書の部
平成27年2月　6日(金)～2月15日(日)
絵画・彫塑の部
平成27年2月21日(土)～3月　1日(日)
陶芸の部
平成27年3月　6日(金)～3月15日(日)
写真の部
平成27年3月　6日(金)～3月15日(日)
会　場　いわき市立美術館企画展示室
主　催　いわき市民美術展覧会運営委員会
いわき市教育委員会
いわき市文化協会
いわき市立美術館
後　援　㈶福島県報徳社　福島民報社　福島民友新聞社
いわき民報社　ＮＨＫ福島放送局　ラジオ福島
福島テレビ　福島中央テレビ　福島放送
テレビユー福島　いわき市民コミュニティ放送
協　力　いわき美術協会　いわき陶芸協会
いわき書道協会　いわきアート集団
いわき写真協会
審査員　書の部　村上皓南、吉田汀秀、田久芳涯、草野蘆舟
絵画・彫塑の部　福島瑞穂
陶芸の部　鈴木　環
写真の部　齋藤康一

書の部　入賞者

賞　名	作品名	作家名	住　所
いわき市長賞	七言絶句	村越紫苑	平
いわき市議会議長賞	島崎藤村の詩	阿部嶋泉	平下平窪
いわき市教育委員会教育長賞	七言詩	山川榮雪	平
《佳作》			
いわき市文化協会会長賞	小臣單觶	樋田静流	錦町
福島県報徳社賞	しらつゆ	臺　麗子	遠野町滝
〃	宿河西務詩	丹野清波	小名浜岡小名
美術館友の会賞	王維詩	関根精香	中之作
有限会社トーカイ賞	臨敦煌漢簡	小野寺香玉	泉玉露
洛賞	黄庭堅詩	小林峯玉	湘南台
〃	高祖本紀	馬上溪花	平中山
遠藤一心堂賞	杜甫詩	金成大雅	中央台
〃	臨孔家坡前漢簡	伊藤松茄	平赤井
マルナカ表具店賞	七言詩	薄葉志千	平上平窪
株式会社坂本紙店賞	よろこび	井戸川保子	郷ヶ丘
ホープ商事株式会社賞	陶 淵明詩	小野泰山	小名浜
有限会社磐植賞	七言詩	片寄光月	平
キョー和賞	呉昌碩詩	新妻心葉	郷ヶ丘
書優会賞	杜甫詩	櫛田華堂	勿来町
アートスペース泉	項忠詩	吉村翠苑	平
株式会社風雅プランニング賞	劉嗣綮詩	吉田藍仙	小名浜
株式会社風雅プランニング賞	夏初遊桜祠	根内千寿	好間町下好間
株式会社風雅プランニング賞	臨傅山	鈴木多佳	平上荒川
いわき書道協会賞	杜甫詩	上遠野 遊	鹿島町米田
いわき書道協会賞	春	田中リョウ	平
いわき書道協会賞	臨虎溪山前漢簡	柴田晃奈	平
いわき書道協会賞	水静月無波	吉田澄心	中央台
いわき書道協会賞	五言詩	金成文子	江名
いわき書道協会賞	陳輔詩	長久保萩泉	勿来町
いわき書道協会賞	郭元振詩	鈴木江華	平中山
いわき書道協会賞	臨高野切第一種	澤坂千蓼	平
いわき書道協会賞	三言句	星野成子	自由ヶ丘
青少年賞	臨雁塔聖教序	田中桃子	平

※青少年賞は、20歳未満を対象に若手育成を目的として設けられたものであり、毎年審査員が任意に若干名選定する。

絵画・彫塑の部　入賞者

賞　名	作品名	作家名	住　所	部門
いわき市長賞	浄	大内重子	内郷内町	絵
いわき市議会議長賞	袋田の滝	杉本正春	内郷高坂町	絵
いわき市教育委員会教育長賞	風街ろまん・冬の空・ぼくは、きっとかぜをひいてるんです。	小島敦雄	常磐湯本町	絵
《佳作》				
いわき市文化協会会長賞	私の未来は	佐久間静子	常磐上湯長谷町	彫
福島県報徳社賞	ここに故郷あり、二年目の春	吉田博通	小川町柴原	絵
〃	SPIRITUAL	古川美雪	平	絵
〃	燻る火種	中田寛二	常磐湯本町	彫
美術館友の会賞	古の記憶	吉田浩二	内郷御台境町	絵
有限会社トーカイ賞	道―飄然	根本裕之	平泉崎	絵
株式会社箱崎美術広告社賞	空飛ぶ車	四家友幸	中央台	彫
椿屋賞	初めの一歩	木村律子	平中神谷	絵
〃	薔薇	澤田葵	平下平窪	絵

賞　名	作品名	作家名	住　所	部門
昭文堂賞	兵隊さん	吉田健人	内郷御台境町	彫
〃	俵積	鎌田章代	小名浜下神白	絵
画廊喫茶モナミ賞	古からのメッセージ	濱田正弘	高倉町	絵
ギャラリー磐城賞	Persona	四家友幸	中央台	絵
アートスペース泉賞	マーメイド	仁井田香代子	小名浜	絵
アートスペース エリコーナ賞	夢想の男	田邉香絵	植田町	絵
《特別賞》				
青少年（ギャラリーわづくりや）賞	森の中で	大谷一喜	常磐湯本町	絵
青少年奨励（X）賞	薔薇	澤田葵	平下平窪	絵
青少年奨励（X）賞	兵隊さん	吉田健人	内郷御台境町	彫

※青少年賞は、20歳未満の出品者が対象となる。
※青少年奨励（X）賞は、美術を志す青少年育成のため、25歳以下の上位受賞者を対象にダブル授与される。

陶芸の部　入賞者

賞　名	作品名	作家名	住　所
いわき市長賞	布目花入	小川節子	内郷綴町
いわき市議会議長賞	♪降る春	横山猛	草木台
いわき市教育委員会教育長賞	雲の信号	箱崎りえ	平中神谷
《佳作》			
いわき市文化協会会長賞	麒麟花器	横須賀政雄	三和町上永井
福島県報徳社賞	彩磁椿文水指	伊藤由季子	小名浜上神白
美術館友の会賞	釉裏紅掻落文大鉢	樋田和代	小名浜下神白
M氏賞（いわき陶芸協会）	貴方の生きる世界	鈴木ゆかり	平下高久
ギャラリー界隈賞	焼締大壺	阿部新一	錦町
ギャラリー磐城賞	焼メ花入	佐藤胤信	平下平窪
アートスペース泉賞	シェル	市川陶之臣	泉ヶ丘

佳作本数　　７本

写真の部　入賞者

賞　名	作品名	作家名	住　所
いわき市長賞	郷愁	柏舘健	金山町
いわき市議会議長賞	やんちゃ姫	横山もと子	石森
いわき市教育委員会教育長賞	海岩模様	大津賀禮子	内郷高野町
《佳作》			
いわき商工会議所会頭賞	ぼくらの星空	吉田暁欧	平下神谷
いわき市文化協会会長賞	空を翔ける少女	江尻乃亜	泉町下川
福島県報徳社賞	はじまりの予感	佐藤進吾	平
美術館友の会賞	水中華	葛原博昭	中央台
社団法人　いわき観光まちづくりビューロー賞	花滝	高橋済男	錦町
〃	おはなし	小野貞夫	中央台
福島県営業写真館協会いわき支部賞	故郷	中川司	好間町上好間
昭文堂賞	紅葉	鍛治邦雄	中岡町
東日本国際大学賞	絆	角田駒雄	内郷高野町
ＹＫ写真工房賞	秋のシンフォニー	菊地ケサ子	平赤井
小百合賞　（有）磐植	響宴	酒井和重	平
カメラのキタムラ賞	雅	野木道弘	常磐松が台

賞　名	作品名	作家名	住　所
カメラの矢吹賞	神秘	石田俊一	泉町滝尻
いわき写真協会賞	母と娘	早坂慧子	平赤井
常磐工業株式会社賞	荒ぶる波に挑む（いわき市豊間海岸）	増井俊一	平
イタリアンレストラン　テラッツァ賞	郷の散歩道	久田和江	平
丸貞かまぼこ賞	玉露	望月治	平赤井
源グループ賞	平安から未来へ星めぐる阿弥陀堂	山本敏和	中央台
だいこん家賞	祭化粧	舛井美智子	平谷川瀬
有限会社プディングアリス賞	初夏の陽射し	荒井真治	平赤井
写真ギャラリーコールピット賞	イヨボヤ	齋藤吉久	平下神谷
ミモザギャラリー賞	笑顔	蛭田光典	常磐藤原町
丸秀水産株式会社賞	港は楽園	丹野孝	桜ヶ丘

佳作本数　23本

展覧会事業
共　催　展

藝大Am（アートマネージメント）＋ いわき
高校生クロッキーワークショップの作品展示

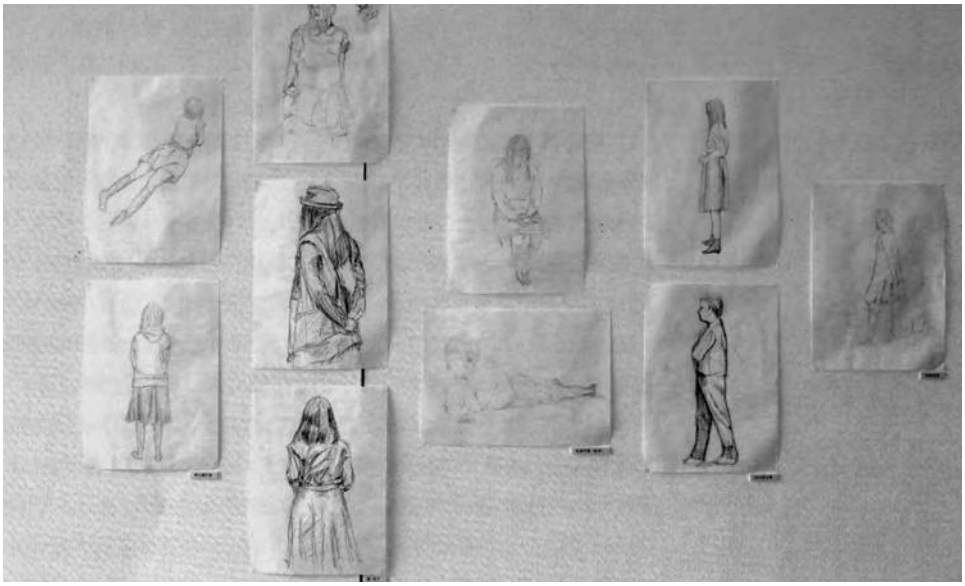
「藝大Ａｍ＋いわき」事業は、東京藝術大学、いわき芸術文化交流館アリオス、いわき市立美術館が連携し、いわきのアートマネージメントに関わる人材の育成を目的として平成25年度に引き続き、本年度も実施された。

今年度のメインのプログラムは、「いわきアートプロジェクト探検隊」と題し、いわき市各地で行われている様々なアートプロジェクトを実際に見て、考え、最終的には受講生がひとつのアートプロジェクトを提案した。

本事業のプログラムの一つである「高校生クロッキーワークショップ」は昨年度からの継続開催で、いわき出身の藝大卒業生と現役生を講師として、夏と秋の２回ワークショップをアリオスで実施した。今回の受講生のクロッキーを一人２点前後、美術館の企画展「藝大に学んだ巨匠たち」展の会期に合わせ、１階ロビーで展示したのが、「高校生クロッキーワークショップの作品展示」である。作品のほかに受講生の感想を一人ずつパネルで紹介したが、一生懸命さが伝わる、高校生らしい展示となった。

なお、同時に講師の作品参考展示として、鈴木貴雄の彫刻作品１点、およびアシスタントの松島志野の日本画１点を紹介したが、これは、公園を挟んで隣にあるアリオスで実施された「鈴木貴雄×松島志野　いわきから藝大へ　明日の巨匠たち」展へとつながった。

会　期　2014年11月15日(土)～12月14日(日)
会　場　1階ロビー
主　催　いわき市立美術館　東京藝術大学　いわき芸術文化交流館アリオス



普及事業 移動美術館

美術や美術館に親しむきっかけづくりを目的のひとつに、美術館鑑賞講座、実技指導、ワークショップなど、美術館の機能を館外（市内の学校や公民館等の公共施設など）に移動して展開している。

普及事業 講演会

「藝大に学んだ巨匠たち展」の開催に併せて展覧会の出品作品やその背景の理解の理解を深めるために、専門の講師を招聘した記念講演会と当館ゆかりの藝大出身作家を招いて展示作品を前にしたアーティストトークを開催した。

日時	講師	講座名（内容）	会場
11月16日	古田亮 （東京藝術大学大学美術館准教授）	記念連続講演会1　藝大コレクションを語る 「藝大に学んだ巨匠たち」展の開催を記念して開催。出品作品の中の高橋由一の《鮭》を中心に解説。	セミナー室
11月23日	小泉晋弥 （茨城大学教授）	記念連続講演会2　横山大観と東京美術学校 「藝大に学んだ巨匠たち」展の開催を記念して開催。横山大観のイメージを一新するようなエピソードを交えた内容。	セミナー室
12月7日	中村一美 （多摩美術大学教授）	アーティストトーク1 「藝大に学んだ巨匠たち」展の開催を記念して開催。藝大出身作家が、作家の視点で出品作品、さらに東京芸術大学コレクションについて語った。	企画展示室
12月14日	山本伸樹 （美術家）	アーティストトーク2 「藝大に学んだ巨匠たち」展の開催を記念して開催。藝大出身作家が、作家の視点で出品作品、さらに東京芸術大学コレクションについて語った。	企画展示室

普及事業 美術講座

展覧会鑑賞の一助として、また、様々な美術の情報の提供を目的として当館学芸員が講師となり随時開催している。休館中のために、ティーチャーズミュージアムを市内の学校を会場として開催したが、例年になく多くの参加者を得た。

日時	講師	講座名（内容）	会場
7月25日	植田玲子 （当館学芸員） 江尻英樹貴 （当館学芸員）	ティーチャーズミュージアム 小学校教育研究会図画工作部会との共催により教職員の夏休み研修と相乗りするかたちで開催。足踏み木版リトグラフの技法による共同作品制作のプログラム。	平第一小学校

普及事業 ギャラリー・トーク

作品鑑賞の一助として、常設展において毎週土曜日を中心に開催。また、団体、個人に限らず要望に応じて随時実施した。

日時	講師	講座名（内容）	会場
毎週土曜日 （19回開催）	（当館学芸員）	常設展ギャラリートーク 常設展展示作品の解説	常設展示室
通年・随時 （10回開催）	（当館学芸員）	団体説明 常設展、および企画展について、学校等の団体来観者に対しての説明	常設展示室、企画展示室

記念連続講演会２／小泉晋弥

アーティスト・トーク１／中村一美

アーティスト・トーク２／山本伸樹

普　及　事　業
ワークショップ

美術、造形に限定しない幅広い表現活動について、専門の講師を中心に実技習得から応用まで参加者の自主性に多くを委ねる形で実施。

日時	講師	講座名（内容）	会場
1月 6日～ 1月25日	展覧会スタッフ	かんたん！版画　体験コーナー フロッタージュでオリジナルカードをつくろう！ いわき市小・中学生版画展の会期中毎日、随時参加のスタイルで開催。準備した型紙を鉛筆やクレヨンでこすり出す簡単な版画（フロッタージュ）の体験コーナー。仕上げた作品は会期中、版画の広場に展示。	１階ロビー特設会場
1月17日、 1月18日	村上康成 （絵本作家）	わくわくアートスクール だいすき♡生きもの！だいすき♡絵の具箱 いわき市小•中学生版画展に併せて開催。講師による著書『ピンク、ぺっこん』、『ピンクのとんだ日』の読み聞かせに始まり、その後、絵具づくり、好きな生きものをテーマとした大きな絵を描くという内容で進められた。各々のこだわりと物語を携えた生きもいのたちが画用紙いっぱいに色鮮やかに描かれた。	１階ロビー
3月21日、 3月22日	安斉重夫 （彫刻家） 斉藤眞紀 （造形作家）	収蔵作家ワークショップ 奇才の版画家・秋山泰計からのおくりもの―楽しいしかけ《おびからくり》の不思議に挑戦!! 恒例の収蔵作家ワークショップであるが、物故の作家を取り上げたはじめてのケース。埋め模様による表現と「おびからくり」による立体造形をめぐり、2人の作家を招いて、秋山泰計の芸術世界を楽しく体験するプログラムとした。	常設展示室、セミナー室

普　及　事　業
実　技　講　座

開催中の展覧会に関連したプログラムや、普段体験する機会が少なく、表現する楽しさを体験でき日常の生活や今後の制作活動に生かせる独自のプログラムにより実施している。講師による公開制作と連動させることにより、参加者に限らずより多くの人に興味と関心にこたえられるように配慮した。

日時	講師	講座名（内容）	会場
12月13日、 12月14日	長浦ちえ （水引デザイナー）	手軽に作れる水引アレンジ １日目は「ぽち袋」、２日目は「お正月飾り」とし、それぞれ午前、午後コースを設定し、都合４回のコースにより実施。淡路結び、梅結びなど日本の伝統的な飾り結びを使い、お正月をイメージした小物づくりにチャレンジした。	セミナー室
1月24日	橋浩憲 （造形作家）	針金造形 ステンレス針金を使って「チビガエル」を制作。高度な立体感覚を必要とする針金造形であるが、午前と午後に１体ずつ制作するプログラムを通して、参加者全員が作品を完成させた。	実技講習室
3月 7日、 3月14日	糸崎公朗 （美術家・写真家）	フォトモ・いわきの街で １週目は、講師から提供された写真を使ってフォトモを制作。２週目は、１週目の経験をもとに自ら街歩きをして写真を撮影し、撮った写真からフォトモを制作。	実技講習室
3月28日、 3月29日	坂啓典 （ペーパーエンジニア）	作ってあそぼう！動くおもちゃ １日目は動く仕掛けのペーパークラフトキット「玉ころがし」の制作を主とするコース。２日目はクランクの動きから発想した作品をつくる「クランクモデルアレンジ」コースの２コースを設定して低学年から高学年、そして大人まで楽しめる内容とした。	実技講習室

美術講座／ティーチャーズミュージアム

美術講座／ティーチャーズミュージアム

ワークショップ／かんたん！版画　体験コーナー

普及事業 公開制作（実技講座）

実技講座と連動して開催。多くの人に講師の制作過程を紹介すると同時に実技講座の参加者の導入としても位置付けて開催。

日時	講師	講座名（内容）	会場
12月13日	長浦ちえ（水引デザイナー）	**手軽に作れる水引アレンジ** 実技講座「手軽に作れる水引アレンジ」の1日目、ぽち袋コースに併せて開催。	セミナー室
1月24日	橋浩憲（造形作家）	**針金造形** 実技講座「針金彫刻」に併せて、開催中の「いわき市小・中学生版画展」の会場ともなっている１階ロビーで開催。見学者と会話を交わしながら、１体を20分程度で仕上げるカエル、トカゲなどの制作工程を公開した。	

普及事業 映像鑑賞会

映像ソフト（DVD 等）の利用により、主に企画展にあわせた映像鑑賞会を開催する催し。

日時	講師	講座名（内容）	会場

（本年度は、映像鑑賞会は未開催。）

普及事業 コンサート＆パフォーマンス

企画展、常設展と連動させながら、時代とともに多様化する表現芸術を様々な角度から紹介、検証する試み。今日の美術作品と他ジャンルの表現行為との相乗効果を実感できるような内容にも心がけて開催。

日時	講師	講座名（内容）	会場
1月12日	鍵本景子（朗読） 橋爪恵一（クラリネット） 古川仁美（フルート） 森反ナナ子（ピアノ）	**春を祝うコンサート おはなしクラッシク～ぞうのババール～** いわき市小・中学生版画展に併せて開催。クラッシク音楽と朗読が融合した「小象ババールのお話」（フランシス・ブーランク作）を中心として開催。子供から大人まで楽しめるゆかいなコンサート。	常設展示室

普及事業 出版

● THE GALLARY ＝いわき市立美術館ニュース

当館のニュースとして「THE GALLARY」を２回発行した。

No.58（平成26年9月25日発行）

・藝大に学んだ巨匠たち　―　東京藝術大学大学美術館所蔵作品を中心に

平野明彦（当館副館長）

・【報告】藝大Ａｍ＋いわきアートマネジメント講座「いわきアートプロジェクト探検隊」（進

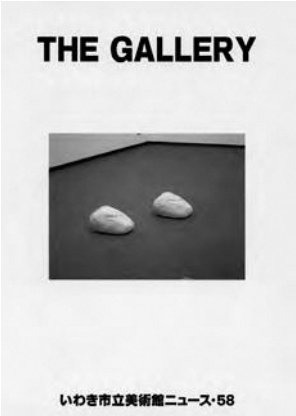
ワークショップ／わくわくアートスクール

ワークショップ／わくわくアートスクール

ワークショップ／収蔵作家ワークショップ

行中）　杉浦友治（当館学芸課長）
・【報告】みんなで元気になるアート・キャラバン3　柴田百合子（当館学芸員）
・図書室だより　竹内啓子（当館学芸員）
・表紙解説　《川になる 3》　植田玲子（当館学芸員）

No.59（平成27年3月20日発行）
・アンコールワットへのみち―神々の彫像―　杉浦友治（当館学芸課長）
・浮世絵の華と艶―氏家浮世絵コレクション設立40周年記念　竹内啓子（当館学芸員）
・現代美術の基礎知識・5
　美術館へようこそ　名作、大作目白押し！コレクション大公開　平野明彦（当館副館長）
・図書室だより　竹内啓子（当館学芸員）
・表紙解説　大隅英雄　《LOCUS IN THE SKY》　江尻英貴（当館学芸員）



●いわき市立美術館年報
平成25年度年報　B5判　73ページ

●展覧会図録等
藝大に学んだ巨匠たち　東京藝術大学大学美術館所蔵作品を中心に
26×19㎝　142ページ

普及事業 実技講習室の公開

開館以来、随時解放としていた実技講習室の利用であるが、今回の長期休館を機に試験的に美術館の自主事業に限った利用とした。

普及事業 図書室の公開

午前9時30分～午後5時（7、8月の金曜日は、午前9時30分～午後8時）まで室内閲覧に限り図書室を公開している。貸出業務は行っていない。展覧会図録など図書室で公開していない資料類についても、利用者の申し出により閲覧対応している。

また、常設展・企画展の開催に併せ、鑑賞の一助となるよう関連図書を会場内に配置している。

普及事業 実習生の受け入れ

休館中の為実施しなかった。

ワークショップ／収蔵作家ワークショップ

実技講座／気軽に作れる水引アレンジ

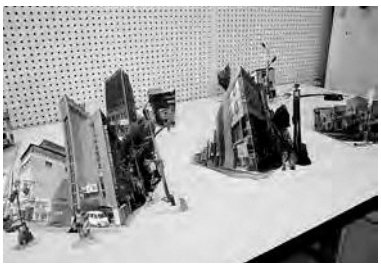
公開制作／針金造形

普　及　事　業

共　催　事　業

日　時	講　師　等	講　　座　　名	共　　催　　先	会　場
8月　2日	鈴木貴雄 （彫刻家） 渡邉庸平 （東京藝術大学学生） 松島志野 （東京藝術大学学生）	芸大Am＋いわき 高校生クロッキーワークショップ第１回	東京藝術大学、いわき芸術交流館アリオス	いわき芸術交流館アリオス　稽古場３・４
8月　7日	杉浦友治 （当館学芸員）	みんなでアートを楽しもう！ 第７回 美術の見方、楽しみ方Ⅰ 西洋の風景画	いわき市中央公民館	いわき市中央公民館
8月10日	足立元 （美術史家） ジェームズ・ジャック （東京藝術大学非常勤講師） 山本伸樹 （美術家） 若林靖人 （田人公民館長）	芸大Am＋いわき いわきアートプロジェクト探検隊① ART MEETING 2014 田人の森に遊ぶ	東京藝術大学、いわき芸術交流館アリオス	田人公民館
8月21日	平野明彦 （当館副館長）	みんなでアートを楽しもう！ 第８回 美術の見方、楽しみ方Ⅱ 東洋の風景画	いわき市中央公民館	いわき市中央公民館
9月　7日	足立元 （美術史家） ジェームズ・ジャック （東京藝術大学非常勤講師） 会田勝康 （アートスタジオもりたかや、特定非営利活動法人　Wunder ground） 吉田重信 （美術家） 藤城光 （アーティスト）	芸大Am＋いわき いわきアートプロジェクト探検隊② いわき駅前の楽しい芸術祭「玄々展」	東京藝術大学、いわき芸術交流館アリオス	アートスタジオもりたかや、他
9月13日、9月14日		裸婦デッサン会	いわき市立美術館友の会、いわき美術協会	いわき市文化センター
10月　5日	足立元 （美術史家） ジェームズ・ジャック （東京藝術大学非常勤講師） 小松理虔、tttttan （UDOK） 高木市之助 （グラフィックデザイナー）	芸大Am＋いわき いわきアートプロジェクト探検隊③ 小名浜に生まれるアートの胎動	東京藝術大学、いわき芸術交流館アリオス	オルタナティブスペースＵＤＯＫ、他

実技講座／針金造形


実技講座／フォトモ・いわきの街で

実技講座／フォトモ・いわきの街で

日　時	講　師　等	講　　座　　名	共　　催　　先	会　場
11月　3日	赤沼潔 （東京藝術大学教授） 安藤美奈 （東京藝術大学講師） 鈴木貴雄 （彫刻家） 松島志野 （東京藝術大学学生）	芸大Am＋いわき トークセッション　アートはなぜ必要か―東京藝術大学が目指すもの	東京藝術大学、いわき芸術交流館アリオス	いわき芸術交流館アリオス　大リハーサル室
11月　3日	鈴木貴雄 （彫刻家） 松島志野 （東京藝術大学学生）	芸大Am＋いわき 高校生クロッキーワークショップ	東京藝術大学、いわき芸術交流館アリオス	いわき芸術交流館アリオス　大リハーサル室
11月22日	足立元 （美術史家） ジェームズ・ジャック （東京藝術大学非常勤講師） 杉浦友治 （当館学芸員）	芸大Am＋いわき いわきアートプロジェクト探検隊④　改めて「いわき市立美術館」を探検する	東京藝術大学、いわき芸術交流館アリオス	いわき市立美術館企画展示室
11月29日	星博人 （福島県教育センター） 佐々木吉晴 （当館館長） 平野明彦 （当館副館長）	平成26年度福島県教育センター自主講座 先生のための図画工作・美術鑑賞法指導講座	福島県教育センター	いわき市立美術館企画展示室、セミナー室
12月　6日	足立元 （美術史家） ジェームズ・ジャック （東京藝術大学非常勤講師）	芸大Am＋いわき いわきアートプロジェクト探検隊⑤「いわきの新たなアートプロジェクト」企画会議	東京藝術大学、いわき芸術交流館アリオス	いわき芸術交流館アリオス　カンティーネ
2月　4日	柴田百合子 （当館学芸員）	ことぶき学園講話 色・再発見～楽しみながら生かす色の力	いわき市中央公民館	いわき市中央公民館
2月　8日	市美展書の部審査員	市美展書の部審査員による作品説明会	いわき市民美術展覧会運営委員会	いわき市立美術館企画展示室
2月21日	市美展絵画・彫塑の部招待作家	市美展絵画・彫塑の部招待作家による作品説明会	いわき市民美術展覧会運営委員会	いわき市立美術館企画展示室
3月　7日	裏千家淡交会 いわき支部	市美展陶芸の部企画「呈茶会（市民がつくった茶碗を使って…」	いわき市民美術展覧会運営委員会	いわき市立美術館１階ロビー
3月　8日	市美展写真の部 招待作家	市美展写真の部招待作家による作品説明会	いわき市民美術展覧会運営委員会	いわき市立美術館企画展示室

実技講座／作ってあそぼう！動くおもちゃ

実技講座／作ってあそぼう！動くおもちゃ

コンサート＆パフォーマンス／春を祝うコンサート

所　蔵　資　料

A．美術作品収蔵状況
B．美術作品の貸出状況
C．資料の購入等に関する状況

A．いわき市立美術館美術品収蔵状況

年度	購入		寄贈		移管	計	寄託	
	点数	備考	点数	備考	点数	点数	点数	備考
昭55年	68	※	10			78	1	一色ちかこ
56	115	※	337	宝船312点		452	1	白河城跡(h. 19返却)
57	75		26	※		101		
58	357		67	資料３点含む	5	429		
59	54		27		4	85		
60	53		37			90		
61	23		105		7	135	1	下村観山
62	7		22			29		
63	21		8			29		
平成元	11		9		2	22		
2	17		28	資料２点含む		45	38	
3	10		5			15	1	舟越桂
4	9		9			18	4	田口安男
5	9	※	0			9		
6	5		4			9	8	田口安男
7	7		4			11		
8	7		2			9		
9	11		1			12		
10	28		6			34		
11	8	※	37			45	-38	平成２年度分返却
12	11		23			34	5	松田松男作品
13	8		22			30		
14	8		1			9		
15	12		42			54	2	中村一美
16	33		13			46		
17	17		8			25		
18	3		1			4		
19	0		3			3		
20	0		30			30	14	ｲｹﾑﾗﾚｲｺ13点、河口龍夫1点
21	0		1		0	1		
22	0		0		0	0		
23	0		40	資料９点含む	0	40		
24	0		116		0	116		
25	0		18		0	18		
26	0		22		0	22		
計	987		1, 084		18	2, 089	37	

※：平成21年度に見直し

B．美術品の貸し出し状況

作家名	作品名	貸し出し先	貸出期間	目的(展覧会名)
F.フンデルトワッサー	ポフツカワの木と移ろう恋、パースでの一週間	喜多方市美術館	2014年 ５月22日～６月24日	フンデルトヴァッサーポスター展
F.フンデルトワッサー	燃え上がる冬			

作家名	作品名	貸し出し先	貸出期間	目的(展覧会名)
F.フンデルトワッサー	夜の壁			
F.フンデルトワッサー	黒い鯨の歌			
F.フンデルトワッサー	緑の力			
F.フンデルトワッサー	ヌーファーの(九つの)頭のあるらせん			
高松次郎	点 (1961年作)	東京国立近代美術館	2014年11月18日～2015年３月５日	高松次郎ミステリーズ
小山田二郎	夏の夜	府中市美術館	2014年12月18日～2015年３月６日	生誕100年　小山田二郎展
小山田二郎	夜の集い			
小山田二郎	シャンデリア			
井上長三郎	葬送曲	宮城県美術館	2015年１月22日～３月28日	わが愛憎の画家たち―針生一郎と戦後美術
ヨーゼフ・ボイス	橇			
関根伸夫	位相―大地(版画)			

C．所蔵資料に関する状況

●図書資料

	購入			受贈			計
	図書	図録・目録	館報・紀要	図書	図録・目録	館報・紀要	
平成22年度まで	4,885	145	6	2,384	17,429	4,543	29,392
平成23年度	140	3	0	16	301	118	578
平成24年度	70	15	0	85	259	179	608
平成25年度	16	8	0	82	460	214	780
平成26年度	47	4	0	84	374	222	731
計	5,158	175	6	2,651	18,823	5,276	32,089

●視聴覚資料

	購入								受贈									計
	CD	DVD	ビデオテープ	LD	フィルム	スライド	カセットテープ	その他	CD	DVD	ビデオテープ	LD	フィルム	スライド	カセットテープ	電子ブック	その他	
平成22年度まで	16	68	245	51	11	16	0	0	63	45	59	0	0	0	1	1	0	576
平成23年度		3							2	2								7
平成24年度	6	3							7	7								23
平成25年度	1	1							4	8	1							15
平成26年度	1								6	10								17
計	24	75	245	51	11	16	0	0	82	72	60	0	0	0	1	1	0	638

D. 平成26年度新収蔵作品

凡　例

1．この目録には、平成26年度のいわき市立美術館新収蔵作品を収録した。

2．作品の分類は、平面作品Ⅰ（直接技法に基づくもの）、平面作品Ⅱ（間接技法に基づくもの:版画等）、平面作品Ⅲ（ポスター、写真等）、立体作品、映像・その他。

3．各作品のデータは以下の通り。

整理番号／作者名（生没年）
作品名
制作年
技法・材質
寸法
サインの位置及び年記
最初の発表展覧会及び受賞歴
収蔵の経緯
登録番号

4．作家名は分類ごとに日本人作家と外国人作家に大別し、日本人作家は五十音順に、外国人作家は姓のアルファベット順に配列した。

5．制作年は、作品に明記されているもの、及び制作事情の明確なものに限って記載した。

6．寸法は、センチメートルを単位として、平面作品では画面の縦×横、立体作品では高さ×幅×奥行きとした。

【平成26年度　収蔵作品分類】

平面作品Ⅰ	17点
平面作品Ⅱ	5点
平面作品Ⅲ	0点
立体作品	0点
映像・その他	0点
資料	0点
計	22点

《平面作品Ⅰ》

1. 大宮 昇（1901-1973）
スケッチブック「炭鉱」（1）
1935
コンテ、色鉛筆、水彩・紙（全46点）
28.6×22.3
坑夫・山本作兵衛の生きた時代～戦前・戦時の炭坑をめぐる視覚表現（丸木美術館、2013）
寄贈　大宮眞弓
2014-19

1 表紙（磐城炭砿綴坑）	水彩・紙
2（磐城炭砿町田坑、専用鉄道と貨車）	コンテ・紙
3（巻上小屋とトロッコ）	コンテ、水彩・紙
4（炭車押し）	コンテ、水彩・紙
5（少年）	コンテ、水彩・紙
6（磐城炭砿綴坑）	コンテ、水彩・紙
7（炭鉱での人物デッサン8態）	コンテ、水彩・紙
8 高坂炭坑	コンテ、水彩・紙
9（トロリー電車）	コンテ、水彩・紙
10（磐城炭砿町田坑、選炭場）	コンテ、水彩・紙
11（万石）	コンテ、水彩・紙

1

2

3

4

5

6

7

8

9

12	（磐城炭砿町田坑、選炭場）	コンテ、水彩・紙
13	（常磐線綴駅周辺）	コンテ、水彩・紙
14	（立坑ヤグラ周辺）	コンテ、水彩・紙
15	（立坑ヤグラ）	コンテ、水彩・紙
16	（立坑ヤグラ周辺）	コンテ、水彩・紙
17	（大煙突と煙道）	コンテ、水彩・紙
18	（布製の防止を被った坑夫二人）	コンテ、水彩・紙
19	（磐城炭砿住吉本抗）	コンテ、水彩・紙
20	（炭鉱での人物デッサン14態）	コンテ、水彩・紙
21	住吉坑附近にて	コンテ、水彩・紙
22	高坂坑人車	コンテ、水彩・紙
23	（トロリー電車、炭車ののりまわし）	コンテ・紙
24	ポンプ室	コンテ、水彩・紙
25	（坑内詰所）	コンテ、水彩・紙
26	切羽	コンテ、水彩・紙
27	（坑内での石炭運搬）	コンテ、水彩・紙
28	坑夫のデッサン７態	コンテ、水彩・紙
29	（切羽での石炭積込み）	コンテ、水彩・紙
30	（バッタリ）	コンテ、水彩・紙
31	（斜坑人車）	コンテ、水彩・紙
32	（坑夫）	コンテ・紙
33	（ランプ、保安帽、ダイナマイト着火線巻、懐中電灯、弁当）	コンテ、水彩・紙
34	坑口（入山採炭湯本坑）	コンテ、水彩・紙
35	人車捲揚所	コンテ、水彩・紙
36	巻揚げ機	コンテ、水彩・紙
37	坑内詰所（第二水平坑上部）	コンテ、水彩・紙
38	捲揚	コンテ、水彩・紙
39	後山（石炭を炭車に積む）	コンテ、水彩・紙
40	瓦斯を拂う（風管で風を送る）	コンテ、水彩・紙
41	熱と闘ふ	コンテ、水彩・紙
42	（コールピック）	コンテ、水彩・紙
43	（安全灯を持つ坑夫、掘進、昼食）	コンテ、水彩・紙
44	掘進	コンテ、水彩・紙
45	人車	コンテ、色鉛筆、水彩・紙
46	裏表紙（切羽での作業）	水彩・紙

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

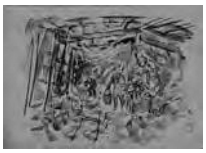
36

37

38

39

40


41

42

43

44

45

46

2. 大宮 昇（1901-1973）

スケッチブック「炭鉱」（2）
1935
コンテ、墨、水彩・紙（全34点）
28.7×22.0
坑夫・山本作兵衛の生きた時代～戦前・戦時の炭坑をめぐる視覚表現（丸木美術館、2013）
寄贈　大宮眞弓
2014-20

1

2

3

4

5

6

1 表紙（入山採炭）	水彩・紙
2（坑内のエンドレス巻き）	コンテ、水彩・紙
3 ポンプ座	コンテ、水彩・紙
4（選炭場）	コンテ、水彩・紙
5（選炭場の石炭積込み場）	コンテ、水彩・紙
6（選炭場のバケットコンベアー）	コンテ、水彩・紙
7（選炭場）	コンテ、水彩・紙

8	（貨車積み）	コンテ、水彩・紙
9	（石炭積込場）	コンテ、水彩・紙
10	坑木	コンテ・紙
11	（入山採炭の資材置場）	コンテ、水彩・紙
12	（入山採炭）	コンテ、水彩・紙
13	（人車から入坑）	コンテ、水彩・紙
14	（修理工場）	コンテ、水彩・紙
15	（高圧送電の鉄塔）	コンテ、水彩・紙
16	（選炭場の原炭ポケット）	コンテ、水彩・紙
17	（貨車への積込み）	コンテ、水彩・紙
18	（炭住と共同便所）	コンテ、水彩・紙
19	（入山採炭）	コンテ、水彩・紙
20	（会計日にたつ市のにぎわい）	コンテ、水彩・紙
21	（国鉄の綴駅）	コンテ・紙
22	（坑夫）	コンテ・紙
23	（弁当を食べる坑夫）	コンテ・紙
24	（婦人）	コンテ、水彩・紙
25	（磐城炭砿住吉一坑）	コンテ・紙
26	（火薬の受け渡し所）	コンテ、水彩・紙
27	霞暮（磐城炭砿町田坑）	コンテ・紙
28	（ズリ捨て場）	コンテ、水彩・紙
29	（坑口の繰込み場）	コンテ、水彩・紙
30	炭山の街	コンテ、墨・紙
31	（技師の巡回）	コンテ、水彩・紙
32	（入山採炭）	コンテ、水彩・紙
33	（入山採炭）	コンテ、水彩・紙
34	裏表紙（大煙突と立坑）	鉛筆、水彩・紙

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

3. 大宮 昇（1901-1973）

スケッチブック「炭鉱」（3）
1935
コンテ、鉛筆、水彩・紙（全33点）
28.7×22.0
坑夫・山本作兵衛の生きた時代～戦前・戦時の炭坑をめぐる視覚表現（丸木美術館、2013）
寄贈　大宮眞弓
2014-21

1

2

3

1 表紙（選炭婦）	水彩・紙
2（チップラー）	コンテ・紙
3（選炭場のバケットコンベアー）	コンテ、水彩・紙
4（選炭婦による石炭の選別）	コンテ、水彩・紙
5（選炭婦7態）	コンテ、水彩・紙
6 選炭場シャワー	コンテ、水彩・紙
7（選炭場）	コンテ、水彩・紙
8（万石から選炭場へ）	コンテ、水彩・紙
9（スキップカー）	コンテ、水彩・紙
10 選炭婦	コンテ、水彩・紙
11（ズリ山）	コンテ、水彩・紙
12（捲場）	コンテ、水彩・紙
13（ズリ山）	コンテ、水彩・紙
14（火力発電所）	コンテ、水彩・紙
15（炭車）	コンテ、水彩・紙
16（選炭場）	コンテ・紙
17（選炭場）	コンテ、水彩・紙
18 auto conveyer（切羽からコンベアで炭車へ石炭を積む）	コンテ、水彩・紙
19（発破後の石炭積込作業）	コンテ、水彩・紙
20（風管）	コンテ、水彩・紙
21（切羽での支保）	鉛筆、コンテ、水彩・紙
22（支保工）	コンテ、鉛筆、水彩・紙

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

23（支保）　コンテ、鉛筆・紙
24（仕事を終わり身支度）　鉛筆、水彩・紙
25 坑内事務所前にて　鉛筆、水彩・紙
26（一休みする坑夫）　鉛筆、コンテ、水彩・紙
27 斜坑人車　コンテ、鉛筆・紙
28（オーガを持つ坑夫）　コンテ、水彩・紙
29（オーガを持つ坑夫）　コンテ、水彩・紙
30 Good-bye, blue sky！　コンテ、鉛筆・紙
31（エンドレス巻）　コンテ、水彩・紙
32（選炭婦）　鉛筆、水彩・紙
33 裏表紙（自画像）　鉛筆・紙

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

4. 大宮 昇（1901-1973）

スケッチブック「炭鉱」（4）
1935
コンテ、鉛筆、水彩・紙（全18点）
28.7×22.0
坑夫・山本作兵衛の生きた時代〜戦前・戦時の炭坑をめぐる視覚表現（丸木美術館、2013）
寄贈　大宮眞弓
2014-22

1

2

3

1	表紙（立坑のある炭坑風景）	水彩・紙
2	町田坑（と竹之内の専用鉄道をはさんだ町並）	コンテ、水彩・紙
3	（磐城炭砿町田坑と炭鉱住宅）	コンテ、水彩・紙
4	（磐城炭砿町田坑と炭鉱住宅）	コンテ、鉛筆、水彩・紙
5	matida tanko	コンテ、鉛筆、水彩・紙
6	（石炭積込場と貨車）	コンテ、鉛筆、水彩・紙
7	（磐城炭砿綴坑と専用鉄道）	鉛筆、水彩・紙
8	（選炭婦の帰途）	鉛筆、水彩・紙
9	（選炭場）	鉛筆、水彩・紙
10	（入山採炭）	鉛筆、水彩・紙
11	（入山採炭）	鉛筆、水彩・紙
12	（御殿炭住から住吉坑の宮沢炭住をみる）	鉛筆、水彩・紙
13	排水口（高坂にて）	鉛筆、水彩・紙
14	好間坑（石炭積込場と専用鉄道）	鉛筆、水彩・紙
15	好間坑	鉛筆、水彩・紙
16	（磐城炭砿綴坑の大煙突と煙道）	コンテ、水彩・紙
17	（磐城炭砿綴坑の立坑ヤグラ）	コンテ、水彩・紙
18	（磐城炭砿綴坑）	コンテ、水彩・紙

※スケッチブックの各葉のタイトルで、（　）が付いているものは、常磐炭田史研究会の協力を得た。

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

5. 勝呂 忠（1926-2010）

影
1954
油彩・カンヴァス
91.0×65.2
寄贈　勝呂伸子
2014-3

6. 鈴木新夫（1915―1980）

妻
1977
鉛筆・紙
56.0×36.0
個展（東苑現代美術館、1979）
寄贈　平澤敏雄
2014-4

7. 鈴木芳子（1929-1998）

夏井川をへだて発電所をのぞむ平の家の庭より
1955
鉛筆・紙【※裏面に鉛筆による書き込み（椅子と花瓶）あり】
32.0×41.0
家族の肖像―鈴木実・鈴木芳子の世界（いわき市立美術館、1999）
寄贈　鈴木厚
2014-5

8. 鈴木芳子（1929–1998）

炭鉱長屋
1957
鉛筆、クレヨン・紙
29.5×23.5
家族の肖像―鈴木実・鈴木芳子の世界（いわき市立美術館、1999）
寄贈　鈴木厚
2014-6

9. 鈴木芳子（1929–1998）

炭鉱長屋（こいのぼり）
1957
鉛筆、クレヨン・紙
29.5×23.5
家族の肖像―鈴木実・鈴木芳子の世界（いわき市立美術館、1999）
寄贈　鈴木厚
2014-7

10. 鈴木芳子（1929–1998）

実（みのる）
1958
鉛筆・紙
21.0×14.5
家族の肖像―鈴木実・鈴木芳子の世界（いわき市立美術館、1999）
寄贈　鈴木厚
2014-8

11. 鈴木芳子（1929–1998）

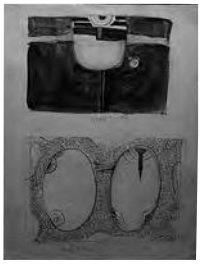
実（みのる）（パイプ）
1958頃
鉛筆・紙【※裏面に鉛筆による書き込み（人物）あり】
41.0×32.0
家族の肖像―鈴木実・鈴木芳子の世界（いわき市立美術館、1999）
寄贈　鈴木厚
2014-9

12. 鈴木芳子（1929–1998）、鈴木実（1930–2002）

デッサン三題（鈴木芳子と鈴木実による）
1963／1963頃
鉛筆、ペン・紙　【※紙の片面には鈴木芳子のデッサン2点（1）《（題名不詳）》（1963頃、鉛筆•紙、20.0×14.0）（上）、（2）《（題名不詳）》（1963頃、鉛筆•紙、18.0×20.0）（下）〕が貼られている。反対面には鈴木実のデッサン1点（3）《（題名不詳）》（1963、ペン•紙、12.5×17.0）が貼られている】
43.5×30.0
家族の肖像―鈴木実・鈴木芳子の世界（いわき市立美術館、1999）
寄贈　鈴木厚
2014-10

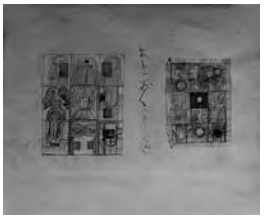
13. 鈴木芳子（1929–1998）

デッサン四題
1964／1964頃
鉛筆、ペン、水彩•紙　【※紙の片面には（1）《（題名不詳）》（1964、鉛筆、ペン、水彩、16.0×20.5）（上）と（2）《恋人同士》（1964、鉛筆、17.0×23.5）（下）とが描かれている。反対面にはデッサン2点（3）《（題名不詳）》（1964頃、鉛筆•紙、20.5×14.0）（上）、（4）《（題名不詳）》（1964頃、鉛筆・紙、21.5×15.0）（下）〕が貼られている。】
43.5×30.0
家族の肖像―鈴木実・鈴木芳子の世界（いわき市立美術館、1999）
寄贈　鈴木厚
2014-11



14. 鈴木芳子（1929-1998）

デッサン四題
1966／1966頃
鉛筆、水彩・紙　〔※紙の片面には（1）《人紋No.16》（1966、鉛筆、水彩・紙、20.0×15.0）（左）と、（2）《（題名不詳）》（1966、鉛筆、水彩・紙、20.0×15.0）（右）が貼られている。反対面には、左側にデッサン（3）《（題名不詳）》（1966、鉛筆・紙、17.2×14.0）が描かれ、右側にデッサン（4）《（題名不詳）》（1966頃、鉛筆・紙、15.0×11.2）が貼られている。〕
30.0×43.5
家族の肖像―鈴木実・鈴木芳子の世界（いわき市立美術館、1999）
寄贈　鈴木厚
2014-12



15. 鈴木芳子（1929-1998）

人々
1967
鉛筆・紙
25.2×33.3
家族の肖像―鈴木実・鈴木芳子の世界（いわき市立美術館、1999）
寄贈　鈴木厚
2014-13

16. 中村一美（1956―）

聖Ⅲ（ヴィパシン）〔毘婆尸仏〕
2012
アクリル・綿布
259.0×194.0
個展（国立新美術館、2014）
寄贈　中村一美
2014-1

17. 吉澤美香（1959―　）

わー5
2005
アクリル、ガッシュ・合成紙
220.0×220.0
個展（いわき市立美術館、2005）
寄贈　吉澤美香
2014-2

《平面作品Ⅱ》

1. 大宮 昇（1901-1973）

炭山図
1936頃
リトグラフ・紙（カラー）
41.5×55.5
坑夫・山本作兵衛の生きた時代～戦前・戦時の炭坑をめぐる視覚表現（丸木美術館、2013）
寄贈　大宮眞弓
2014-14

2. 大宮 昇（1901-1973）

炭山図
1936頃
リトグラフ・紙（モノクロ）
41.0×52.8
坑夫・山本作兵衛の生きた時代～戦前・戦時の炭坑をめぐる視覚表現（丸木美術館、2013）
寄贈　大宮眞弓
2014-15

3. 大宮 昇 (1901-1973)

ドリルを持つ男
1942頃
リトグラフ・紙
11.0×15.5
坑夫・山本作兵衛の生きた時代〜戦前・戦時の炭坑をめぐる視覚表現（丸木美術館、2013）
寄贈　大宮眞弓
2014-16

4. 大宮 昇 (1901-1973)

小さき苗
不詳
リトグラフ・紙
39.0×52.9
坑夫・山本作兵衛の生きた時代〜戦前・戦時の炭坑をめぐる視覚表現（丸木美術館、2013）
寄贈　大宮眞弓
2014-17

5. 大宮 昇 (1901-1973)

『炭山画譜　大宮昇創作石版集』
1936
リトグラフ・紙、ed.50、(全14点)
38.2×26.5
寄贈　三枝利文
2014-18

※（　）内はイメージサイズ（以下同様）

1	斜坑人車（表紙）	(22.8×26.5)
2	技師の巡回（扉絵）	(17.6×11.0)
3	万石	(17.3×19.2)
4	撰炭場外景	(13.5×26.7)
5	撰炭場シャワー	(22.0×29.0)
6	撰炭婦	(21.2×28.3)
7	坑口にて	(19.3×24.0)
8	鑿岩機の男達	(17.0×20.1)
9	瓦斯のある坑内にて	(19.7×27.3)
10	坑内の捲場	(20.3×28.0)
11	炭山の街	(17.0×19.5)
12	炭山全景	(20.1×25.2)
13	坑夫（奥付）	38.2×25.3
14	太陽と坑夫達（裏表紙）	(16.3×15.2)

1

2

3

4

5

6

7

8

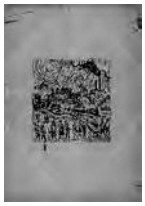
9

10

11

12

13


14

いわき市立美術館条例
いわき市立美術館管理規則

いわき市立美術館条例

昭和58年12月27日　いわき市条例第58号

（設置）

第１条　美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、市民文化の発展に寄与するため博物館法（昭和26年法律第285号。第10条において「法」という。）第18条の規定により、美術館を設置する。

（名称及び位置）

第２条　美術館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名　　称	位　　置
いわき市立美術館	いわき市平字堂根町４番地の４

（事業）

第３条　いわき市立美術館（以下「美術館」という。）は、その目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

⑴　美術作品その他の美術に関する資料（以下「美術作品等」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。

⑵　美術に関する調査及び研究を行うこと。

⑶　美術に関する展覧会、講演会、講習会、映写会等を開催すること。

⑷　前３号に掲げるもののほか、美術館の設置の目的を達成するために必要な事業

（観覧料）

第４条　美術館の常設展（美術作品等の常設展示をいう。以下同じ。）を観覧しようとする者は、別表第１に定める観覧料を納付しなければならない。ただし、美術館の特別展（常設展以外の展示をいう。以下同じ。）と併せて観覧する場合又は国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第２条に規定する国民の祝日において観覧する場合は、この限りでない。

２　特別展を観覧しようとする者は、別表第２に定める額の範囲内において、市長が定める観覧料を納付しなければならない。

（撮影等の許可及び料金）

第５条　学術研究等のため、美術館に展示され、又は保管されている美術作品等の写真撮影、模写又は模造等をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

２　前項の許可を受けた者は、別表第３に定める撮影等料金を納付しなければならない。

（観覧料等の免除）

第６条　市長は、次の各号の一に該当すると認めるときは、観覧料（常設展に係るものに限る。）又は撮影等料金を免除することができる。

⑴　外国人留学生が、福島県の実施する外国人留学生文化施設等無料観覧制度に基づき観覧するとき。

⑵　国又は地方公共団体が行う教育、学術又は文化に係る事業の用に供するため撮影等をするとき。

（観覧料等の不返還）

第７条　既納の観覧料又は撮影等料金は、返還しない。ただし、市長は、災害その他不可抗力により、観覧又は撮影等をすることができなくなったときは、既納の観覧料又は撮影等料金を返還することができる。

（入館の制限）

第８条　教育委員会は、美術館に入館しようとする者又は入館している者が次の各号の一に該当すると認めるときは、入館を制限し、又は館外へ退館させることができる。

⑴　他人に危害を加え、又は迷惑を及ぼすおそれがあるとき。

⑵　施設、設備又は美術作品等を損傷するおそれがあるとき。

⑶　前２号に掲げるもののほか、美術館の管理に支障があると認めるとき。

（賠償責任）

第９条　入館者は、施設、設備又は美術作品等を損傷し、又は滅失したときは、教育委員会の指示するところに従い、その損害を賠償し、又はこれを原状に回復しなければならない。ただし、市長は、相当の理由があると認める場合は、その全部又は一部を免除することができる。

（美術館協議会）

第10条　法第20条第１項の規定に基づき、いわき市立美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

２　協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が委嘱する。

３　協議会は、委員15人以内で組織する。

４　協議会の委員の任期は、２年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

５　協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

（委任）

第11条　この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附　則

この条例は、昭和59年４月28日から施行する。ただし、第１条から第３条まで、第10条及び第11条の規定は、昭和59年４月１日から施行する。

（略）

附　則（平成25年12月26日いわき市条例第67号）

この条例は、平成26年４月１日から施行する。

別表第１（第４条関係）

区　　分	観　覧　料	
	個　　人	団　　体
一般	210円	170円
高校生、高等専門学校生、大学生	150円	110円
小学生、中学生	70円	50円

備考　団体とは、20人以上をいう。

別表第２（第４条関係）

区　　分	観　覧　料	
	個　　人	団　　体
一般	1,500円	1,200円
高校生、高等専門学校生、大学生	740円	590円
小学生、中学生	440円	350円

備考　団体とは、20人以上をいう。

別表第３（第５条関係）

区　　分		料　　金	
写真撮影	モノクローム	１点１回につき	1,620円
	カラー	１点１回につき	3,240円
模写、模造		１点１日につき	2,160円
熟覧、拓本		１点１回につき	210円

備考　１　屏（びょう）風は、１双を１点とする。

２　１そろいの巻子（巻物をいう。）は、１巻を１点とする。

３　対幅は、１幅を１点とする。

４　撮影は、同一作品について原板３枚以内を１回とする。

いわき市立美術館管理規則

昭和59年3月31日　いわき市教育委員会規則第6号

（趣旨）

第1条　この規則は、いわき市立美術館条例（昭和58年いわき市条例第58号。以下「条例」という。）の規定に基づき必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第2条　いわき市立美術館（以下「美術館」という。）に、次の課及び係を置く。

庶務課　庶務係

学芸課　学芸係、普及係

（事務分掌）

第3条　課の事務分掌は、次のとおりとする。

庶務課

⑴　公印の保管に関すること。

⑵　予算の経理に関すること。

⑶　美術館の維持管理に関すること。

⑷　観覧料及び撮影等料金の徴収に関すること。

⑸　統計に関すること。

⑹　美術館協議会に関すること。

⑺　前各号に掲げるもののほか、学芸課の所掌に属しない事務に関すること。

学芸課

⑴　美術作品等の収集、保管及び展示に関すること。

⑵　美術に関する専門的な調査研究に関すること。

⑶　展覧会、研究会、講演会、映写会等の開催に関すること。

⑷　美術に関する案内書、解説書、目録等の刊行に関すること。

⑸　美術作品等の利用に関する助言及び指導に関すること。

⑹　美術作品等の寄贈及び寄託に関すること。

⑺　前各号に掲げるもののほか、学芸事務に関すること。

（職及び職務）

第4条　美術館に館長、副館長、課に課長、係に係長を置き、必要に応じ、参事、主幹、主任主査、専門学芸員、主査、主任学芸員、事務主任、主事、学芸員、主任運転手及び運転手を置く。

2　館長は、上司の命を受け、館務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

3　参事は、上司の命を受け、美術館に関する企画及び調整に参画する。

4　副館長は、館長の職務遂行を補佐し、館長に事故があるときは、その職務を代理する。

5　主幹は、上司の命を受け、館長が定める特定の事務を掌理する。

6　課長は、上司の命を受け、課の事務を処理する。

7　係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

8　主任主査は、上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。

9　専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の専門的な事務を処理する。

10　主査は、上司の命を受け、美術館の事務の一部を分担処理する。

11　主任学芸員は、上司の命を受け、係の事務のうち特定の事務を処理する。

12　事務主任は、上司の命を受け、係の事務の一部を分担処理する。

13　主事は、上司の命を受け、事務をつかさどる。

14　学芸員は、上司の命を受け、専門的な事務を処理する。

15　主任運転手は、上司の命を受け、担任の自動車運転の業務を処理する。

16　運転手は、上司の命を受け、自動車運転の業務に従事する。

（休館日）

第５条　美術館の休館日は、次の各号に掲げる日とする。ただし、教育委員会は、必要があると認めるときは、これを変更し、又は臨時に休館することができる。

⑴　月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その日後のその日に最も近い休日でない日）

⑵　１月１日から同月４日まで及び12月28日から同月31日まで

（開館時間）

第６条　美術館の開館時間は、午前９時30分から午後５時（入館は、午後４時30分）までとする。ただし、毎年７月及び８月の金曜日については、午前９時30分から午後８時（入館は、午後７時30分）までとする。

２　教育委員会は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

（観覧券の交付）

第７条　条例第４条の規定により、観覧料を納付した者に対して観覧券（第１号様式）を交付しなければならない。

（撮影等の許可及び料金）

第８条　条例第５条第１項に規定する撮影、模写又は模造等（以下「撮影等」という。）をしようとする者は撮影等許可申請書（第２号様式）を教育委員会に提出しなければならない。

２　教育委員会は、撮影等を許可したときは、撮影等許可書（第３号様式）を交付する。

（観覧料等の減免）

第９条　条例第６条第２号又はいわき市障害者、高齢者及び児童生徒等の利用に係る公の施設の使用料の減免に関する条例（平成13年いわき市条例第56号）第５条第１項の規定により観覧料又は撮影等料金の減免を受けようとするときは、観覧料・撮影等料金減免申請書（第４号様式）を教育委員会に提出しなければならない。

２　教育委員会は、前項の規定による申請があった場合において、観覧料又は撮影等料金の減免を決定したときは、観覧料・撮影等料金減免通知書（第５号様式）を交付する。

（観覧料等の返還）

第10条　条例第７条の規定により観覧料又は撮影等料金の返還を受けようとする者は、その理由を記載した観覧料・撮影等料金返還申請書（第６号様式）を教育委員会に提出しなければならない。

（美術館協議会の会長及び副会長）

第11条　条例第10条に規定するいわき市立美術館協議会（以下「協議会」という。）に会長及び副会長各１人を置き、それぞれ委員の互選により定める。

２　会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

３　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第12条　協議会の会議は、会長が招集し、会長が会議の議長となる。

２　協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

３　協議会の会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（事務処理及び服務）

第13条　美術館における事務処理及び服務については、いわき市教育委員会事務局処務規程（昭和47年いわき市教育委員会訓令第２号）に基づく事務処理及び服務の例による。

（委任）

第14条　この規則に定めるもののほか、この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長が別に定める。

附　則

この規則は、昭和59年４月１日から施行する。ただし、第５条から第10条までの規定は、昭和59年４月28日から施行する。

（略）

附　則（平成22年３月31日いわき市教委規則第５号）

この規則は、平成22年４月１日から施行する。

第１号様式（第７条関係）

その１

常設展観覧券 金　　額 いわき市立美術館	（切取線）	常設展観覧券 金　　額 この券をもって領収に代えます。 いわき市立美術館

その２

特別展観覧券 金　　額 いわき市立美術館	（切取線）	特別展観覧券 金　　額 この券をもって領収に代えます。 いわき市立美術館	（切取線） 常設展観覧券

備考　１　寸法、デザイン等については、その都度定める。
　　２　観覧券の区分は、一般、高校生・高等専門学校生・大学生及び小学生・中学生とする。

第２号様式（第８条関係）

第２号様式（第８条関係）

撮影等許可申請書

いわき市教育委員会殿

年　月　日

注　太枠線のみ記入してください。

申請者	住所又は所在地	
	氏名又は名称及び代表者	
	電話　－	
第　号　年　月　日許可		
美術作品の名称	作者名	点数
日時　年　月　日　時　分から　時　分まで		
目的		
方法　撮影　模写　模造　熟覧　拓本		

料金					計
撮影	モノクローム	点	円		
	カラー	点	円		
模写・模造		点	円		
熟覧・拓本		点	円		円

館長	副館長	課長	係長	係

第３号様式（第８条関係）

第３号様式（第８条関係）

撮影等許可書

殿

いわき市教育委員会㊞

下記のとおり撮影等を許可します。

第　号　年　月　日許可		
美術作品の名称	作者名	点数
日時　年　月　日　時　分から　時　分まで		
目的		
方法　撮影　模写　模造　熟覧　拓本		

料金					計
撮影	モノクローム	点	円		
	カラー	点	円		
模写・模造		点	円		
熟覧・拓本		点	円		円

指示事項

第４号様式（第９条関係）

第４号様式（第９条関係）

観覧料 撮影等料金 減免申請書

いわき市教育委員会

年　月　日

住所（所在地）
申　請　者　氏名（名称及び代表者氏名）
電話番号
担当者氏名

注意　太枠の中だけ記入してください。

観覧日時 年 月 日 時 分から 時 分まで			撮影等日時 年 月 日 時 分から 時 分まで		
区　分	常設展	特別展	撮　影　等		
一　般	人	人	写真撮影	モノクローム	点
高　校　生 高等専門学校生 大　学　生	人	人		カ　ラ　ー	点
			模写・模造		点
小　学　生 中　学　生	人	人	熟覧・拓本		点
計	人	人	計		点
減免申請の理由					

□減免する。 □減免しない。	減免しない理由	納付すべき観覧料等　円
		減免率
		減免後の観覧料等　円
		起案　年　月　日
		決裁　年　月　日
館長 副館長 課長 係長 係員		施行　年　月　日
		許可番号　第　号

第５号様式（第９条関係）

第５号様式（第９条関係）

観覧料 撮影等料金 減免通知書

様

年　月　日

いわき市教育委員会　㊞

申請年月日 年 月 日			許可番号 第　号		
観覧日時 年 月 日 時 分から 時 分まで			撮影等日時 年 月 日 時 分から 時 分まで		
区　分	常設展	特別展	撮　影　等		
一　般	人	人	写真撮影	モノクローム	点
高　校　生 高等専門学校生 大　学　生	人	人		カ　ラ　ー	点
			模写・模造		点
小　学　生 中　学　生	人	人	熟覧・拓本		点
計	人	人	計		点
減免率			減免率		
減免後の観覧料			減免後の撮影等料金		

第６号様式（第10条関係）

第６号様式（第10条関係）

観覧料 撮影等料金 返還申請書

いわき市教育委員会殿

下記のとおり 観覧料 撮影等料金 の返還を受けたいので申請します。

年　月　日

注　太枠線のみ記入してください。

第　号　年　月　日許可	申請者	住所又は所在地
		氏名又は名称及び代表者
		電話　－
申請理由		
既納観覧料等 観覧料　枚　円 撮影料等　枚　円		
返還申請金額　円		

館長	副館長	課長	係長	係

事業経過報告

平成27年３月31日現在

事業会名			開催期間（日数）	料金 一般 一般	料金 一般 高大	料金 一般 小中	料金 団体 一般	料金 団体 高大	料金 団体 小中	入場者数 一般 一般	入場者数 一般 高大	入場者数 一般 小中	入場者数 団体 一般	入場者数 団体 高大	入場者数 団体 小中	入場者数 招待	入場者数 無料
展覧会事業	常設展	～11/14（臨時休館）															
		現代美術の輝き ―ピカソからクサマまで―	11/15～3/31 110日間	210	150	70	170	110	50	328	16	7	51	－	－	51	3,739
		小　計　A								328	16	7	51	－	－	51	3,739
	企画展	新たな場との出会い―いわき市立美術館彫刻特別展示(会場：アンモナイトセンター他３か所)	4/26～6/8 161日間（延べ日数）	無料													7,239
		みんなで元気になるアートキャラバン3	49回	無料													2,086
		藝大に学んだ巨匠たち―東京藝術大学大学美術館所蔵作品を中心に	11/15～12/14 26日間	1,000	500	300	800	400	240	1,954	62	23	349	－	19	377	3,472
		高校生クロッキーワークショップ	11/15～12/14 26日間	無料													4,287
		いわき市小・中学生版画展	1/6～1/25 17日間	無料													4,791
		第44回いわき市民美術展覧会(書の部)	2/6～2/15 9日間	無料													1,131
		(絵画・彫塑の部)	2/21～3/1 8日間	無料													2,122
		(陶芸の部・写真の部)	3/6～3/15 9日間	無料													1,973
		小　計　B								1,954	62	23	349	－	19	377	27,101
展覧会事業　計　C（A＋B）										2,282	78	30	400	－	19	428	30,840
普及事業		移動美術館		無料									詳細は次ページ参照				0
		講演会		無料													160
		美術講座		無料													98
		ギャラリー・トーク／団体等解説		無料													279
		ワークショップ		無料													1.621
		実技講座		無料													99
		公開制作		無料													191
		コンサート＆パフォーマンス		無料													120
		映像鑑賞会		無料													0
		実技講習会の公開		無料													0
		共済事業		無料													369
普及事業小　計　D																	2,937
合　計　E（C＋D）										2,282	78	30	400	－	19	428	33,777

普及事業報告

事業名	内　容　等	講　師　等	月　日	人数
移動美術館				
小　計				-
講　演　会	記念連続講演会1 「藝大コレクションを語る」	古田亮（東京藝術大学大学美術館准教授）	11月16日	49
	記念連続講演会2 「横山大観と東京美術学校」	小泉晋弥（茨城大学教授）	11月23日	33
	アーティスト・トーク1	中村一美（多摩美術大学教授）	12月7日	33
	アーティスト・トーク2	山本伸樹（美術家）	12月14日	45
小　計				160
美術講座	ティーチャーズ・ミュージアム （平第一小学校／小教研共催）	当館学芸員	7月25日	98
小　計				98
ギャラリー・トーク	常設展	当館学芸員（2014年3月31日現在）	毎週土曜日（19回開催）	34
小　計				34
団体等解説	(団体名)植田東中学校美術部（企画展）	当館学芸員	11月15日	13
	いわき市チャレンジホーム（企画展・常設展）	当館学芸員	11月19日	20
	茨城県立近代美術館友の会（企画展・常設展）	当館学芸員	11月20日	42
	船引中学校美術部（企画展）	当館学芸員	11月22日	21
	湯本第一中学校特別支援学級（企画展）	当館学芸員	11月27日	9
	磐城緑陰中学校1年生（企画展）	当館学芸員	12月2日	9
	鹿島学園高校（企画展・常設展）	当館学芸員	12月3日	27
	いきいきディクラブ（碧空の会）（企画展）	当館学芸員	12月5日	32
	すずかけ幼稚園（常設展・版画の広場）	当館学芸員	1月14日	20
	赤井小学校2年生（企画展・常設展）	当館学芸員	1月21日	52
小　計				245
ワークショップ	かんたん！版画体験コーナー 「フロッタージュでオリジナルカードをつくろう！」	当館スタッフ	1月6日～25日 （16日間開催）	1,573
	わくわくアートスクール 「だいすき♡絵の具箱」	村上康成（絵本作家）	1月17日、18日（2回開催）	33
	収蔵作家ワークショップ ―奇才の版画家　秋山泰計からのおくりもの― 楽しいしかけ《おびからくり》の不思議に挑戦!!	安斉重夫（鉄彫刻家、元数学教師） 斎藤眞紀（造形作家）	3月21日～22日（2日間）	15
小　計				1,621
実技講座	手軽に作れる水引アレンジ	長浦ちえ（水引デザイナー）	12月13日、14日（2回開催）	45
	針金造形	橋寛憲（造形作家）	1月24日、25日（2回開催）	20
	フォトモ・いわきの街で	糸崎公朗（美術家・写真家）	3月7日、14日（2日間）	8
	作ってあそぼう！動くおもちゃ	坂啓典（ペーパーエンジニア）	3月28日、29日（2回開催）	26
小　計				99
公開制作 （公開講座）	手軽に作れる水引アレンジ	長浦ちえ（水引デザイナー）	12月13日	45
	針金造形	橋寛憲（造形作家）	1月24日	146
小　計				191
映像鑑賞会				
小　計				-
コンサート& パフォーマンス	春を祝うコンサート 「おはなしクラシック～ぞうのババール～」	橋爪恵一(クラリネット)、森反ナナ子（ピアノ）、古川仁美（フルート）、鍵本景子（朗読）	1月12日	120
小　計				120
実技講習室の開放				-
小　計				-
共催事業	藝大Am+いわき 高校生によるクロッキーワークショップ	藝大講師	8月2日	7
	市民講座　みんなでアートを楽しもう！ 「西洋の風景画」	杉浦友治（当館学芸課長）	8月7日	5
	藝大Am+いわき いわきアートプロジェクト探検隊① 田人の森に遊ぶ	足立元（美術史家） ジェームズ・ジャック（藝大非常勤講師） 山本伸樹（美術家） 若林靖人（田人公民館長）	8月10日	7
	市民講座　みんなでアートを楽しもう！ 「東洋の風景画」	平野明彦（当館副館長）	8月21日	5
	藝大Am+いわき アートマネージメント講座 いわきアートプロジェクト探検隊②	足立元（美術史家） ジェームズ・ジャック（藝大非常勤講師） 会田勝康（アートスタジオもりたかや） 吉田重信（美術家）	9月7日	6
	裸婦デッサン会		9月13日・14日（2日間）	33

事業名	内　容　等	講　師　等	月　日	人数
共　催　事　業	藝大Am+いわき アートマネージメント講座 いわきアートプロジェクト探検隊③	足立元（美術史家） ジェームズ・ジャック（藝大非常勤講師）	10月5日	10
	藝大Am トークセッション アートはなぜ必要か　ー東京芸大が目指すもの	赤沼潔（藝大教授） 安藤美奈（藝大講師） 鈴木貴雄（彫刻家） 松島志野（藝大生）	11月3日	12
	藝大Am＋いわき 高校生クロッキー・ワークショップ	鈴木貴雄（彫刻家） 松島志野（藝大生）	11月3日	9
	藝大Am＋いわき アートマネージメント講座 いわきアートプロジェクト探検隊④	足立元（美術史家） ジェームズ・ジャック（藝大非常勤講師） 杉浦友治（ナビゲーター）	11月22日	5
	H26年度福島県教育センター自主講座 先生のための図画工作・美術鑑賞法指導講座 「絵をみるということ」	星博人（県教育センター職員） 佐々木吉晴（当館館長） 平野明彦（当館副館長）	11月29日	20
	藝大Am＋いわき アートマネージメント講座 いわきアートプロジェクト探検隊⑤	足立元（美術史家） ジェームズ・ジャック（藝大非常勤講師） 安藤美奈（藝大講師）	12月6日	6
	ことぶき文化学園講話 「色・再発見～楽しみながら生かす色の力」	柴田百合子（当館学芸員）	2月4日	98
	市美展書の部 「審査員による作品解説会」	市美展書の部審査員	2月8日	15
	市美展絵画・彫塑の部 「招待作家による入選作品批評会」	市美展絵画・彫塑の部招待作家	2月21日	25
	市美展陶芸の部 「呈茶会（市民がつくった茶碗を使って）」	裏千家淡交会いわき支部	3月7日	76
	市美展写真の部 「招待作家による（入賞）作品解説会」	市美展写真の部招待作家	3月8日	30
小　　計				369
合　　計				2,937

当初予算

単位：千円

項目	金額	備考
人件費	83,188	
管理費	109,316	
施設管理費	66,008	委員報酬、各種委員謝金、調査研修費、基金積立金、施設運営
作品購入費	0	
施設整備費	43,308	
事業費	29,272	
企画展示事業費	26,166	
常設展示事業費	494	
教育普及事業費	2,244	
調査研究費	368	
計	221,776	

管理・運営
名簿

A. 美術館協議会
B. 美術品選定評価委員
C. 美術館職員

A. 美術館協議会委員名簿

任期：平成26年4月1日～平成28年3月31日

役職	氏名	職業（役職名）
会長	齋藤 一彦	一般社団法人いわき観光まちづくりビューロー 会長
副会長	峰 丘	いわき市立美術館友の会 会長
委員	猪狩 ひろ子	いわき女性の会
委員	坂本 美知子	株式会社いわき市民コミュニティ放送
委員	蛭田 誠	いわき美術協会
委員	戸部 健一	いわき地域学会 幹事
委員	蛭田 光一	いわき青年会議所
委員	相沢 とし子	国際ソロプチミストいわき 会長
委員	織田 千代	美術家
委員	草野 怜子	美術家
委員	鈴木 充子	いわき市小学校教育研究会図画工作部会 部長
委員	石井 秀吾	いわき市中学校教育研究会美術専門部会 副部長
委員	土屋 裕子	福島県高等学校教育研究会美術工芸専門部会 いわき支部長
委員	鎌田 真理子	いわき明星大学 教授
委員	松田 文子	いわき市子ども会育成会連絡協議会 事務局長

【博物館法】
第21条　博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験を有する者の中から当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

B. 美術品選定評価委員会委員名簿

任期：平成26年4月1日～平成28年3月31日

役職	氏名	職業（役職名）
	谷 新	美術評論家 宇都宮美術館長
	北郷 悟	彫刻家 東京藝術大学理事・教授
委員長	市川 政憲	美術評論家 前茨城県近代美術館長
副委員長	清水 真砂	世田谷美術館学芸部長
	小勝 禮子	栃木県立美術館技幹兼学芸課長
	荒木 康子	福島県立美術館専門学芸員

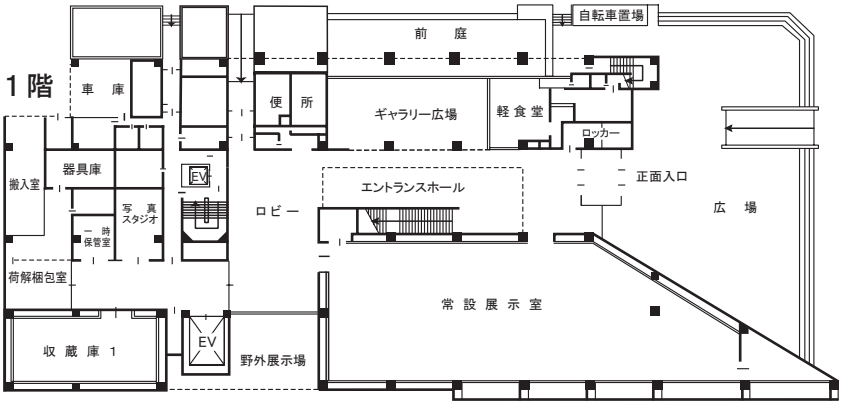
C. 職員名簿

平成26年4月1日現在

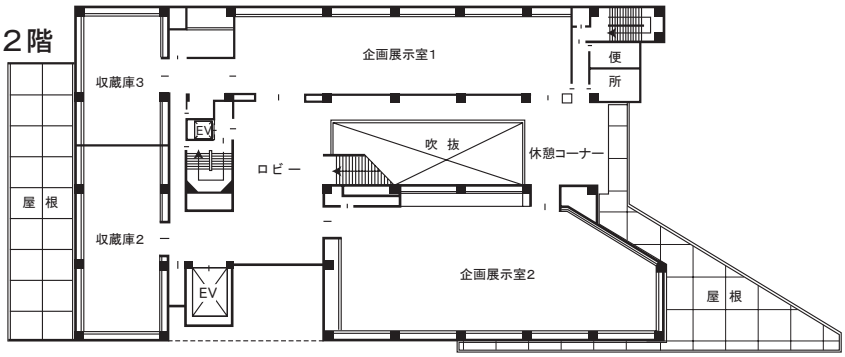
	職員	氏名
	館長㊟	佐々木 吉晴
	副館長㊟	平野 明彦
《庶務課》	主幹（兼）課長㊟	吉田 謠生
庶務係	係長（兼）	吉田 謠生
	主査	勝沼 直美
	事務主任	鈴木 浩美
《学芸課》	主幹（兼）課長㊟	杉浦 友治
学芸係	係長（兼）	杉浦 友治
	主任学芸員	秋葉 啓子
普及係	係長㊟	石川 百合子
	主任学芸員	植田 玲子
	学芸員	江尻 英貴
	学芸員（再任用・短）	堀越 達雄

平面図

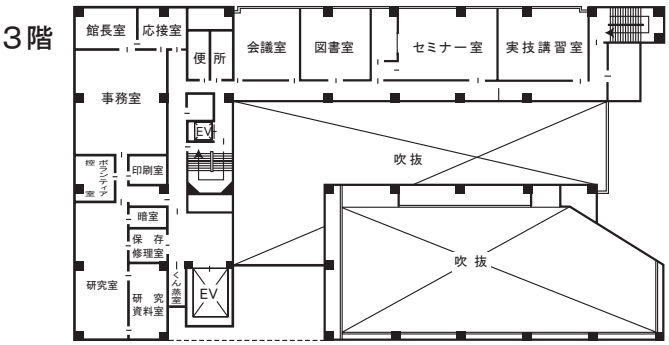
1階


自転車置場
前庭
車庫
便所
ギャラリー広場
軽食堂
ロッカー
搬入室
器具庫
EV
エントランスホール
正面入口
広場
写真スタジオ
ロビー
一時保管室
荷解梱包室
常設展示室
収蔵庫1
EV
野外展示場

2階


企画展示室1
便所
収蔵庫3
EV
吹抜
休憩コーナー
ロビー
屋根
収蔵庫2
企画展示室2
EV
屋根

3階


館長室
応接室
便所
会議室
図書室
セミナー室
実技講習室
事務室
EV
吹抜
ボランティア室
印刷室
暗室
保存修理室
吹抜
研究室
研究資料室
くん蒸室
EV

●開 館 時 間

午前９時30分～午後５時（展示室への入場は午後４時30分まで）

７、８月の毎週金曜日は、夜８時まで開館。（展示室への入場は午後７時30分まで）

●休　館　日

毎週月曜日（ただし月曜日が祝日等の場合は開館し、翌日休館）

年末年始（12月28日～１月４日）

●観　覧　料

	常　設　展	企　画　展（その都度定める）
一　　般	210円（160円）	1,500円（1,200円）以内
高・高専・大学生	140円（110円）	740円（590円）以内
小・中　学　生	70円（50円）	440円（350円）以内

※（ ）内は、20名以上の団体割引料金です。
※企画展チケットで常設展もご覧になれます。
※国民の祝日は、常設展の観覧が無料です。

●企画展・常設展が無料になる場合

・市内在住の65歳以上の方
・身体障がい者手帳、精神障がい者保健福祉手帳のいずれかをお持ちの方
・市内の小学校、中学校、高等学校、専修学校、高等専門学校に在学の方（但し、土曜日、日曜日に限る）

●図書室の利用時間

午前９時30分～午後５時

７月、８月の毎週金曜日は夜８時まで

●実技講習室の利用時間

午前９時30分～午後４時45分

７月、８月の毎週金曜日は夜７時45分まで

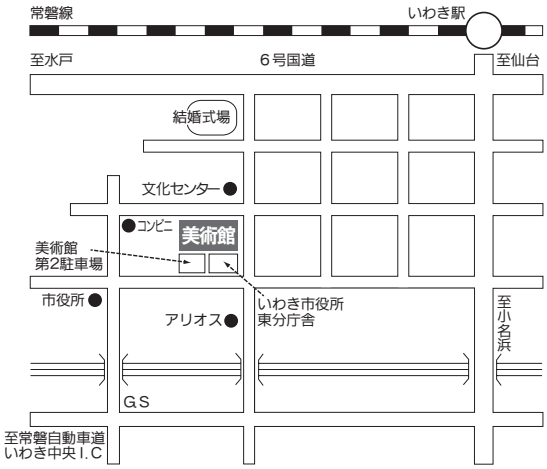
●交　　通

ＪＲ常磐線、磐越東線いわき駅より徒歩12分

常磐自動車道、磐越自動車道いわき中央ＩＣより10分

駐車場：美術館駐車場、他 いわき市公共駐車場

●地　　図



平成26年度
いわき市立美術館年報

編集・発行
いわき市立美術館
〒970-8026　いわき市平字堂根町4-4

VEGETABLE OIL INK